

中区栄一丁目

第4次竖三蔵通遺跡発掘調査  
概要報告書

1987

名古屋市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、名古屋市中区栄一丁目24番地に所在する竪三蔵通遺跡（市遺跡台帳番号7-4）の第4次発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、名古屋市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査に係わる調整事務は文化課が担当した。
4. 発掘調査は、名古屋市見晴台考古資料館学芸員（木村有作・千田嘉博・伊藤厚史）が担当した。
5. 発掘調査は、昭和61年4月15日から5月31日にかけて実施した。
6. 発掘調査に至った原因は、株式会社シンコーホームが住宅建設を計画したためである。
7. 調査区の基本平面図作成業務は、中日本航空株式会社に委託し、空中写真測量で実施した。
8. 基準高は、東京湾の平均海面（T.P.）を第1図、名古屋港工事用基本水面（N.P.）を第8、9、11～14図に用いた。 $N.P.=T.P.+1.4119m$
9. 方位は真北を示す。（第1、2、4～7、10図）
10. 本書の作成にあたっては次の方々の御教示、御協力をいただいた。記して謝意を表する。  
浅井和宏 浅田員由 斎藤孝正 柴垣勇夫 仲野泰裕 宮本長二郎 荒木みのり  
大江達子 戸田未起 伊藤 純 内田好昭
11. 出土遺物、調査記録類は、名古屋市見晴台考古資料館で保管している。
12. 本書の編集・執筆は、伊藤が行った。



目 次	
I. 位置と環境	1
II. 調査に至る経過	5
III. 調査の経過	6
IV. 調査の概要	13
1. 遺構	13
1. 古墳時代の遺構	
2. 近世・近代の遺構	
2. 遺物	21
1. 縄文時代	
2. 弥生時代	
3. 古墳時代	
4. 奈良時代から平安時代	
5. 鎌倉時代	
6. 江戸時代	
7. 明治時代以降	
V. まとめ	25
遺物観察表	27
写真図版掲載遺物表	31
写真図版	
1. 調査区全景	
2. 遺構	
3. 遺構	
4. 遺物出土状態	
5. 遺物 弥生土器・土師器	
6. 遺物 須恵器	
7. 遺物 須恵器	
8. 遺物 須恵器	
9. 遺物 須恵器・埴輪	
10. 遺物 中世陶器 他	
11. 遺物 S K01出土	

12. 遺物 S K01出土 他
13. 遺物 S K03A出土
14. 遺物 S K03B出土
15. 遺物 包含層出土 他
16. 遺物 S K14出土
17. 遺物 S K14出土
18. 遺物 S K14出土
19. 遺物 S D01出土
20. 遺物 土人形
21. 遺物 土人形
22. 遺物 土人形



挿 図 目 次	
第1図 調査位置	1
第2図 那古野台地の遺跡	3
第3図 尾府全図	4
第4図 調査区位置図	5
第5図 遺構配置図	7・8
第6図 遺構全体図	11・12
第7図 調査区北壁大溝断面図	13
第8図 土坑 S K06土器出土状態	14
第9図 2 BGr. 石敷き・S D03断面図	14
第10図 石敷き平面図	17
第11図 5 BGr. S D01断面図	18
第12図 4 BGr.・5 BGr. 間土層図	18
第13図 3 BGr.・4 BGr. 間土層図	18
第14図 調査区南壁土層図	19・20
第15図 遺物実測図 1	22
第16図 遺物実測図 2	23
第17図 遺物実測図 3	24

## I. 位置と環境

豎三蔵通遺跡は名古屋市中区栄一丁目に所在している。JR名古屋駅から南東へ約1.1kmの距離にある。名古屋市街地の中心部は、今からおよそ6万年前の新生代第四紀更新世に古木曾川が運んできた土砂の堆積によって形成された河成平野が隆起し、段丘化したと考えられる面（熱田面）にのっている。この中位段丘面は河川により開析され那古野台地、熱田台地、御器所台地、瑞穂台地、笠寺台地に分かれている。

本遺跡はこのうち最も西側に張り出した那古野台地の南西縁部、標高5～10mに立地し堀川をはさんで西に広がる沖積平野を望む位置を占める。那古野台地は、江戸時代の城下を継承して発展してきたため、最も早く都市化の進んだ地域であり、そのため遺跡は市街地の下に埋もれたままよくわかっていない。本遺跡もその例にもれず、昭和45年頃発見され昭和56年の分布調査の際改めて弥生時代から中世にかけての遺物散布地として台地南端部が遺跡として周知されるようになった。ところが昭和58年に岡山病院内（第1次調査）と栄小学校内（第2次調査）の2箇所まで調査を行ったところ、古墳時代から中世にかけての遺構、遺物のみでなく、近世の屋敷跡や濠を検出し、名古屋城下町を復元する上でも重要な遺跡であることが明らかとなった。また遺跡の推定範囲も東西約450m南北約240m、面積約10万8千㎡と市内でも屈指の広さを有する遺跡となったのである。昭和60年には第



第1図 調査位置

2万5千分の1 地形図より

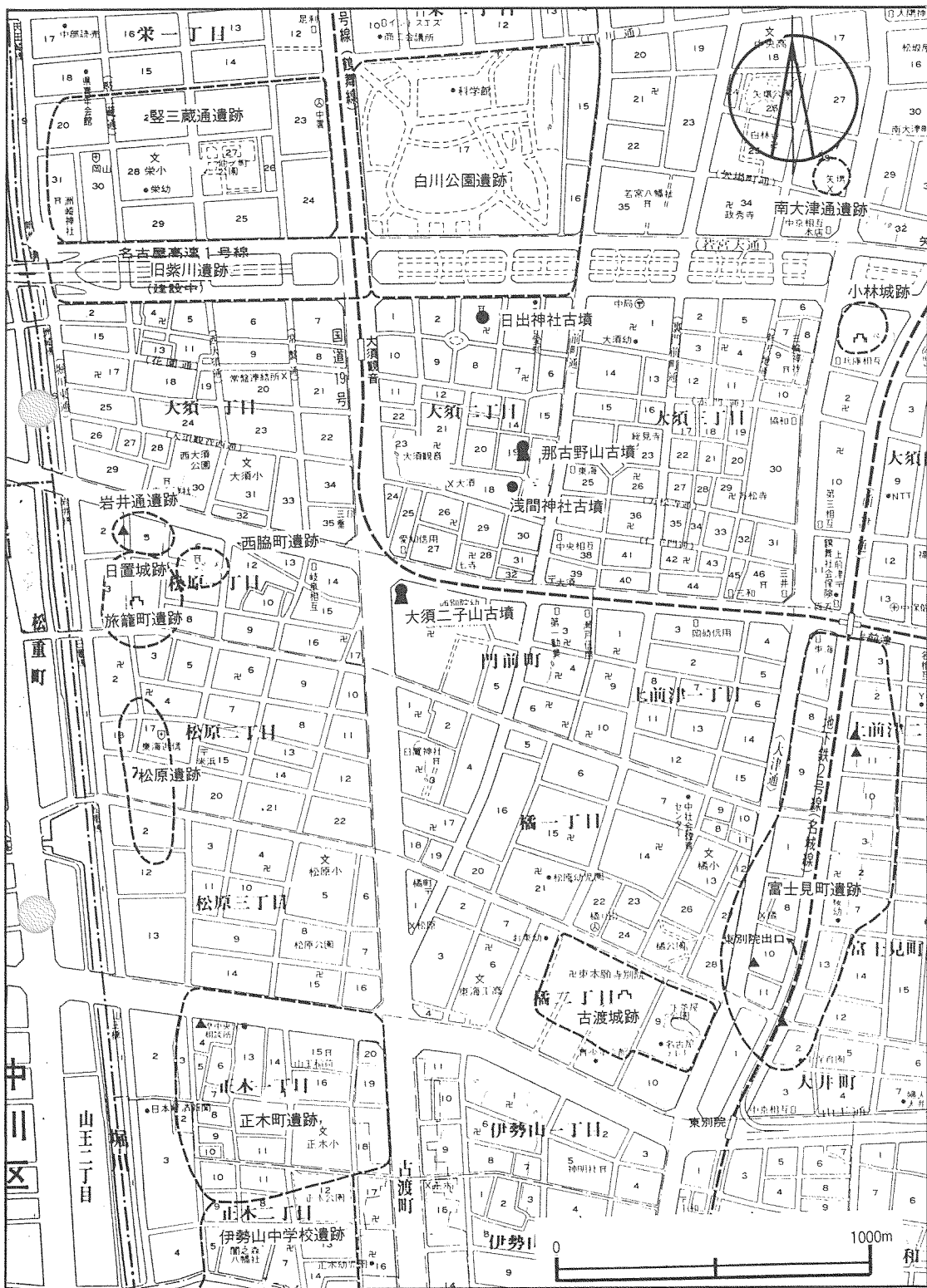


3次調査を行い古墳時代の住居跡等多くの遺構、遺物を検出している。本年度は、今回報告する第4次調査区の他2箇所（第5次調査、第6次調査）で行い前回までと同様大きな成果をあげている。

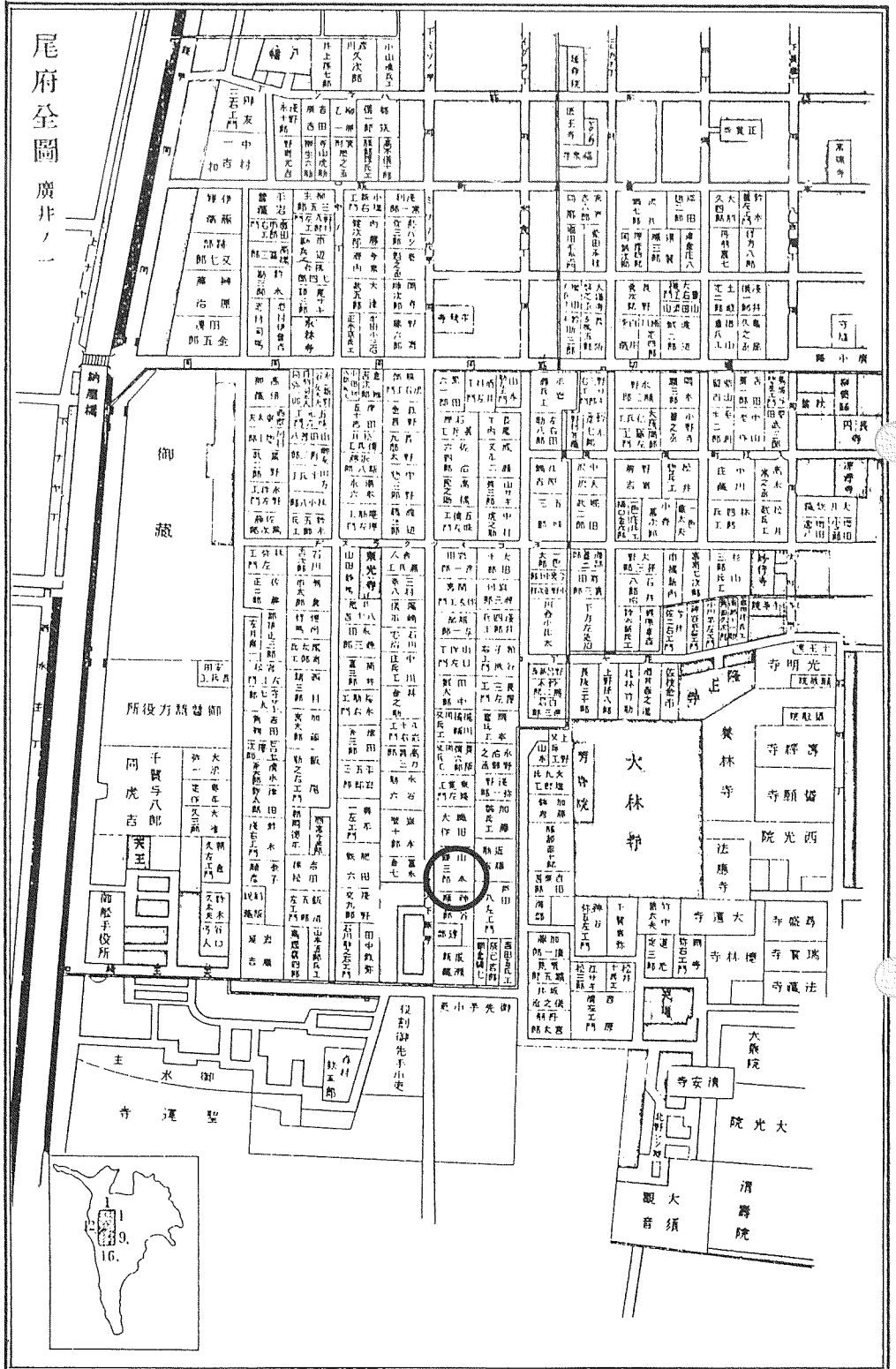
ところで本遺跡の名称となった「豎三蔵通」は、錦通から若宮大通に至る南北道路であるが、江戸時代には三ツ蔵筋又は豎三蔵と呼ばれていた。この名称の由来は、広小路の南、堀川沿いに尾張藩の御蔵があったところからきている。この御蔵は福島正則が清洲城へ入城した時に、城内に長さ30間の米蔵を三棟建てたことに始まり、松平忠吉が城主となった頃これを三ツ蔵と呼んだらしい。慶長15年(1610年)、いわゆる清洲越しとなって名古屋の地へ移り、数十の蔵を建ててもなお普通三ツ蔵と呼ばれ続けた。明治時代になり御蔵は取り壊されたが、東西道路である三蔵通と共にその名を今日に残しているのである。

城下町割図の「天明年間名古屋市中支配分図」や「尾府全図」を見ると、本遺跡の範囲は武家屋敷が建ち並んでいたようである。延享3年(1746年)には御蔵の南側へ武家屋敷を取り壊して御普請方役所が建てられた。また、御普請方役所と天王社(洲崎神社)の間には船奉行千賀氏邸があった。千賀氏は知多郡の出身で、天文年間重親の代に初めて家康につき、師崎に住んで船奉行を務め、三州の海上警備にあたった。以来、長久手の戦、小田原征伐、文禄の役、関ヶ原の戦等で戦功を上げ、江戸時代を通じ尾張徳川家の船奉行を務めた人物である。南隣の天王社は、もと地神(石神)を祀る石神神社(旧村社)と素戔鳴尊を祀り広井天王、牛頭天王と呼ばれた洲崎神社(旧郷社)の二社あった。名古屋城築城以前は、現在の栄一丁目一帯が社地であったのが、築城後武家屋敷となり現在の社地に狭まったようである。今回調査した地点は、明治2年作成の「尾府全図」によれば山本邸があったあたりと推定される。

本遺跡の南側は東から西に抜ける谷筋となっており、戦前まで小河川(紫川)が流れ竹藪となっていた。紫川は現在の名古屋科学館の北付近より発して西流し、国道19号線流した後若宮大通で再度西流していたと推定されていたが、名古屋都市高速道路等の建設に伴い若宮大通地内で昭和57年～61年にかけて5度調査した結果、護岸石垣等を検出し紫川の存在を実証したうえ、縄文時代早期から明治時代にわたる多量の遺物を得ることができた。また、東側の谷筋(現国道19号線)を隔てた白川公園では、昭和60年の美術館建設に伴う事前調査で保存良好な近世墓地(土葬墓 約260基)を検出している。その南方、那古野台地で最も標高の高くなる大須二丁目には、那古野山古墳、浅間神社古墳、日出神社古墳があり、少し離れて大須二子山古墳があった。これらの古墳と本遺跡とは紫川の流れる谷筋を挟んで接しており、また那古野山古墳や大須二子山古墳の築造時期は5世紀後半～6世紀初頭と推定され、そして本遺跡には同時期頃の住居跡があることから、古墳と集落の関係を知る上でも本遺跡の内容は重要である。



第2図 那古野台地の遺跡



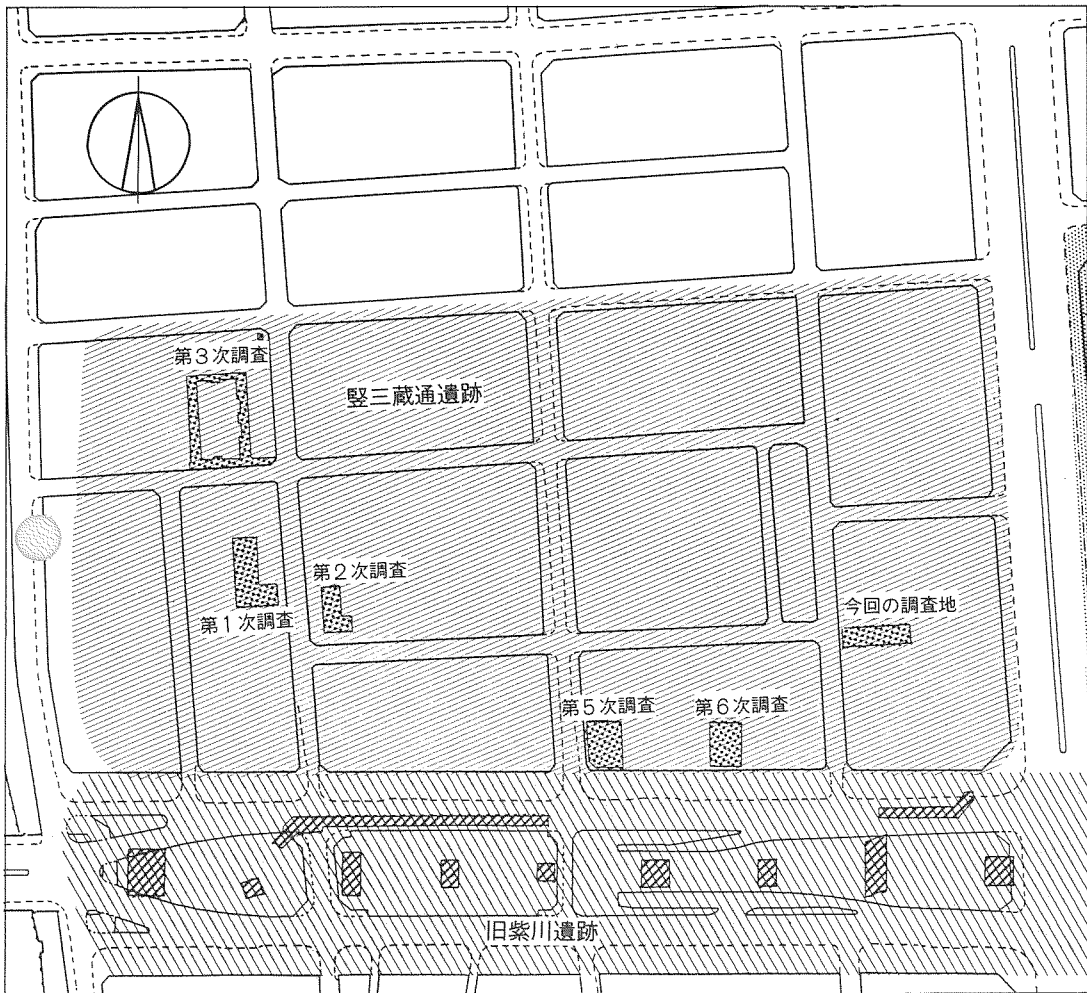
尾府全圖 廣井ノ一

第3図 尾府全圖

『名古屋市史 地理篇』より

## Ⅱ．調査に至る経過

昭和59年9月、日東商事が来庁し、売買規則等について問い合わせを受ける。文化課では当該地が近いうちに埋蔵文化財包蔵地の範囲に含まれる見通しであることを告げ、試掘をするべきと指導する。昭和60年7月、日東商事より試掘の依頼を受ける。昭和60年8月19日、試掘を実施する。試掘の結果埋蔵文化財包蔵地であることを確認する。昭和60年10月、安田信託銀行（仲介者）より土地が売却できそうなので調査を事前にできないか相談を受けるが、工事計画が具体化したうえでなければ発掘できない旨回答する。昭和61年2月、シンコーホーム株式会社代理が来庁し、発掘調査を依頼する。昭和61年4月14日、受託契約を結ぶ。昭和61年4月15日、発掘調査を開始する。



第4図 調査区位置図

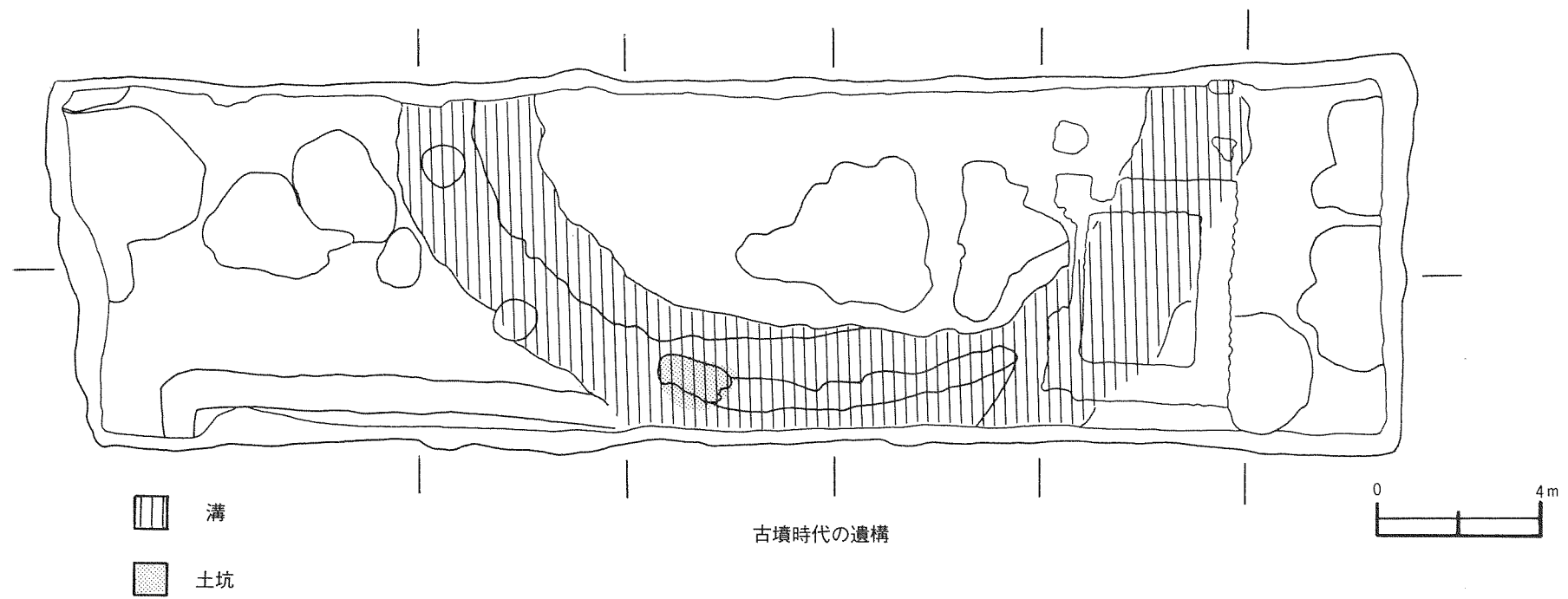
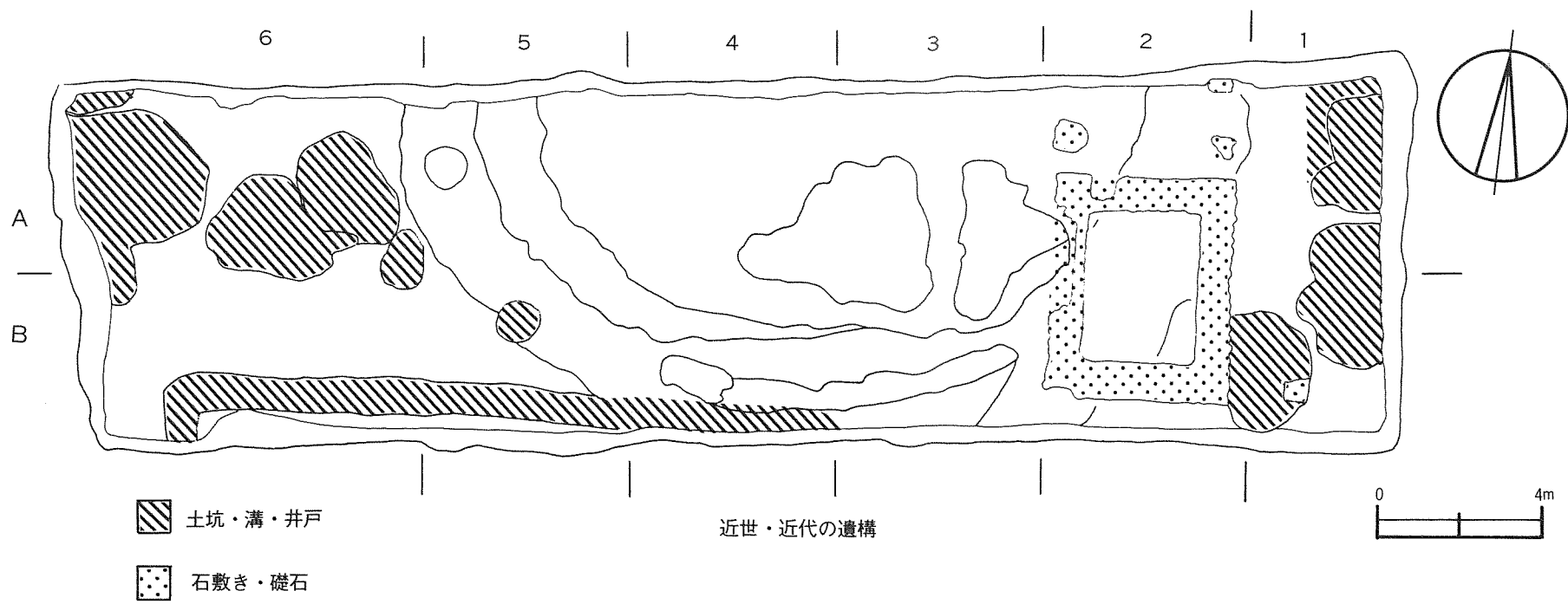
### Ⅲ. 調査の経過

発掘調査は、昭和61年4月15日に着手した。調査対象地は、南北約13m 東西約40mの東西に細長い地で、西側が御園通に接している。まず調査予定地の表土をバックホウを使い除去した。表土は、地表下約70cmほど堆積しており調査区中央部分では戦後の攪乱坑が遺構を破壊しているようだった。また調査区北東、北西端部を深掘りしたところ、北西端部でシルト質の強い黒褐色砂シルト質土が堆積する深い落ち込みを確認した。

4月21日から遺物包含層の掘削を開始した。掘削にあたりグリッドを設定した。グリッド名は調査区北東隅を基準として、5m幅で西へ1、2、3…6、南へA、Bとしこの組み合わせによる北西角の杭番号で呼称することとした。最初は攪乱坑から掘削した。2 Gr. にあたる攪乱坑（試掘坑）を掘削したところ扁平な玉石を検出したので、この玉石の範囲を確認したところ、口字形で東西、南北およそ5mと推定できた。この東北側の1 A Gr. では茶褐色砂シルト質土包含層を約15cm掘削したところよく締まった面が広がっていることが確認された。23日からは1 A Gr. から5 B Gr. にかけて包含層掘削、遺構検出に入った。5 A Gr.、5 B Gr.では南端で東西方向の溝（SD01）と調査区北西端より南東へ緩くカーブする幅約3mの大溝1を検出した。SD01は茶褐色砂シルト質土を埋土とし、近世の遺物を含んでいた。この溝は4 B Gr. で南にまがっていることから家屋敷を画するものではないかと考えた。大溝1は黒褐色砂シルト質土を埋土とし、古墳時代の遺物を含んでおりそれ以降の遺物は含まれていないようだった。この大溝1の性格について、位置的にここはすぐ東及び南に開析谷があるため、西側に広がると推定される集落を画する溝と考えた。さらに検出を続けた結果、この大溝1は4 B Gr. で東西方向となってさらに東へ続いている状況となった。しかし、4 B Gr. では埋土が5 A Gr. や5 B Gr. と異なり、黄色をした地山の砂を多く含んだ茶褐色の強い土であったので、念のため区分してSD02として遺物を取り上げた。さらに3 B Gr. では溝内が二つに分かれていた。すなわち4 B Gr. SD02に続く溝とその南の黒褐色シルト質土を埋土とする溝とになっていた。そのため南の溝をSD03とした。SD02の北の肩は地山で明瞭であるものの、南の肩は黄色砂が混じる黒色土であった。SD03との新旧関係は明瞭に検出することはできなかった。SD03は南に傾斜して調査区の外へ続き、また東半分は深く東側へ下がっていた。



写真1 調査風景



第5図 遺構配置図



3 BGr.、4 BGr. の溝の調査と平行して1 AGr. ～2 BGr. の近世土坑や石敷きの調査も進めていった。1 AGr. 1 BGr. の土坑からは多くの陶器が出土した。石敷きは茶褐色砂シルト質土を埋土とする浅い掘り方を持ち据えられていた。その下の土は黒褐色砂シルト質土であり、遺物は少なかったものの全て古墳時代のものであった。この事と石敷き下の土層観察で溝の肩が検出できた事により、SD03が南西よりカーブして北へ続きさらに調査区外へ続いている事が明らかとなった。すなわち大溝1は調査区内で弧を描く形の溝である事がわかった。

5月9日に6 BGr. の拡張を行った。12日から遺構検出、掘削を行ったところSD01の溝の続きを検出したのをはじめ、土坑等を検出した。またこの日6 AGr. も調査することになったので5月16日に6 AGr. の表土掘削を行った。6 AGr. は近世の遺物を含む土坑を多数検出した。遺構の掘削は5月23日までに大方終了した。

5月26日に清掃を行い、翌27日にヘリコプターによる空中写真撮影を行い、その後北隣のビル屋上をお借りして写真撮影を行った。28、29日には石敷き下に残る黒褐色砂シルト質土の掘削を行った。30、31日に調査区南壁のセクション図作成を行い調査を終了した。

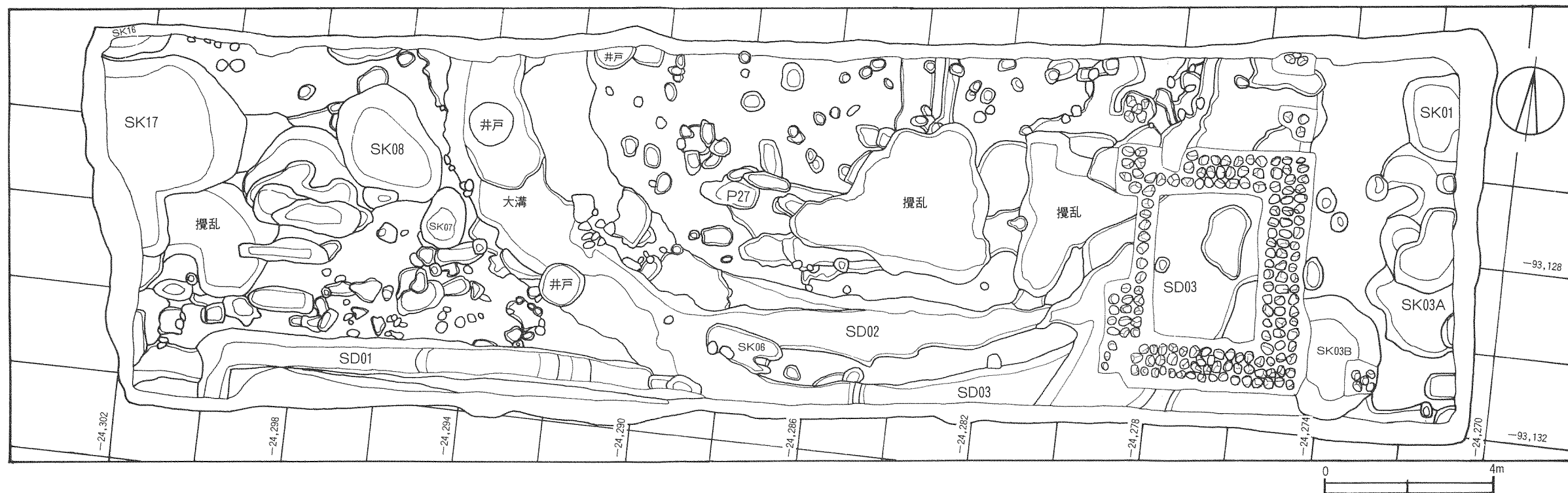


写真2 調査風景

## 調査日誌抄

- 4月15日 表土除去。
- 4月16日 表土除去。
- 4月21日 遺物包含層掘削開始。攪乱坑掘削。
- 4月22日 1A～1BGr. で叩き締められた面検出。
- 4月23日 1A～4BGr. で包含層掘削及び遺構検出開始。大溝1検出掘削。
- 4月24日 SD02検出掘削。
- 4月25日 1A～1BGr. で土坑検出掘削。石敷き検出開始。
- 4月30日 1A～2BGr. で検出した土坑を平板測量。4BGr. SK06検出。
- 5月1日 SD02、SD03掘削。
- 5月6日 1AB～2ABGr. 間セクションベルト取り外し。10時降雨作業中止。
- 5月7日 1AGr. SK05平板測量。5AGr. 大溝1肩検出。
- 5月8日 1ABGr.、石敷き清掃。各セクション土層図作成。
- 5月9日 石敷き写真撮影。6BGr. 表土除去。
- 5月12日 6BGr. 遺構検出掘削。
- 5月13日 6BGr. 遺構検出掘削。
- 5月14日 雨天のため発掘作業中止。
- 5月15日 未掘ピット掘削。大溝1ほぼ完掘。
- 5月16日 未掘ピット掘削。6AGr. 表土掘削。
- 5月19日 6AGr. 遺構検出。午後降雨作業中止。
- 5月20日 午前中雨天のため作業中止。午後より6AGr. 遺構検出掘削。
- 5月21日 6AGr. 遺構掘削。未掘ピット掘削。
- 5月22日 6AGr. 遺構掘削。未掘ピット掘削。
- 5月23日 ほぼ遺構掘削終了。
- 5月26日 清掃。
- 5月27日 写真測量のためヘリコプターによる空中写真撮影。
- 5月28日 石敷き下黒褐色土掘削。
- 5月29日 雨の中石敷き下黒褐色土掘削終了。11時激しい降雨のため作業中止。
- 5月30日 ヘリコプターによる2回目空中写真撮影。調査区南壁土層図作成。
- 5月31日 調査区南壁土層図作成。現地調査終了。





第6図 遺構全体図 (s =  $\frac{1}{100}$ )

## IV. 調査の概要

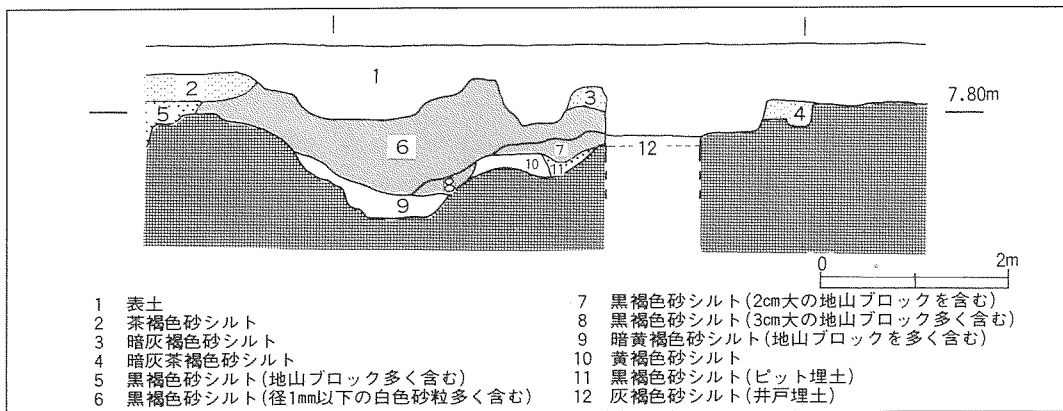
今回の調査は、住宅建設に伴う事前調査として約 290㎡を対象に実施した。調査地点は標高8.5mを測るが、戦後の大規模な復興事業計画により盛土削平しているため近世以前の地形を地表面からは窺い知ることができない。調査の結果、厚さ約60～80cmの表土下で遺物包含層を検出したが、北西側では表土直下で地山を検出した。遺物包含層は茶褐色砂シルト層と黒褐色砂シルト層で、出土遺物から前者は近世末から近代、後者は古墳時代から中世のものとして推定される。遺構は地山面及び茶褐色砂シルト層、黒褐色砂シルト層で検出した。古墳時代の遺構として大溝1（SD02・03含む）、土坑SK06がある。近世、近代の溝として土坑SK01、03A、03B、05、07、08、17、溝SD01、石敷き、井戸等がある。

遺物はコンテナケース（542×342×153cm）約50箱分が出土したが7、8割方は近世以降の陶磁器で占めている。

### 1. 遺 構

#### 1. 古墳時代の遺構

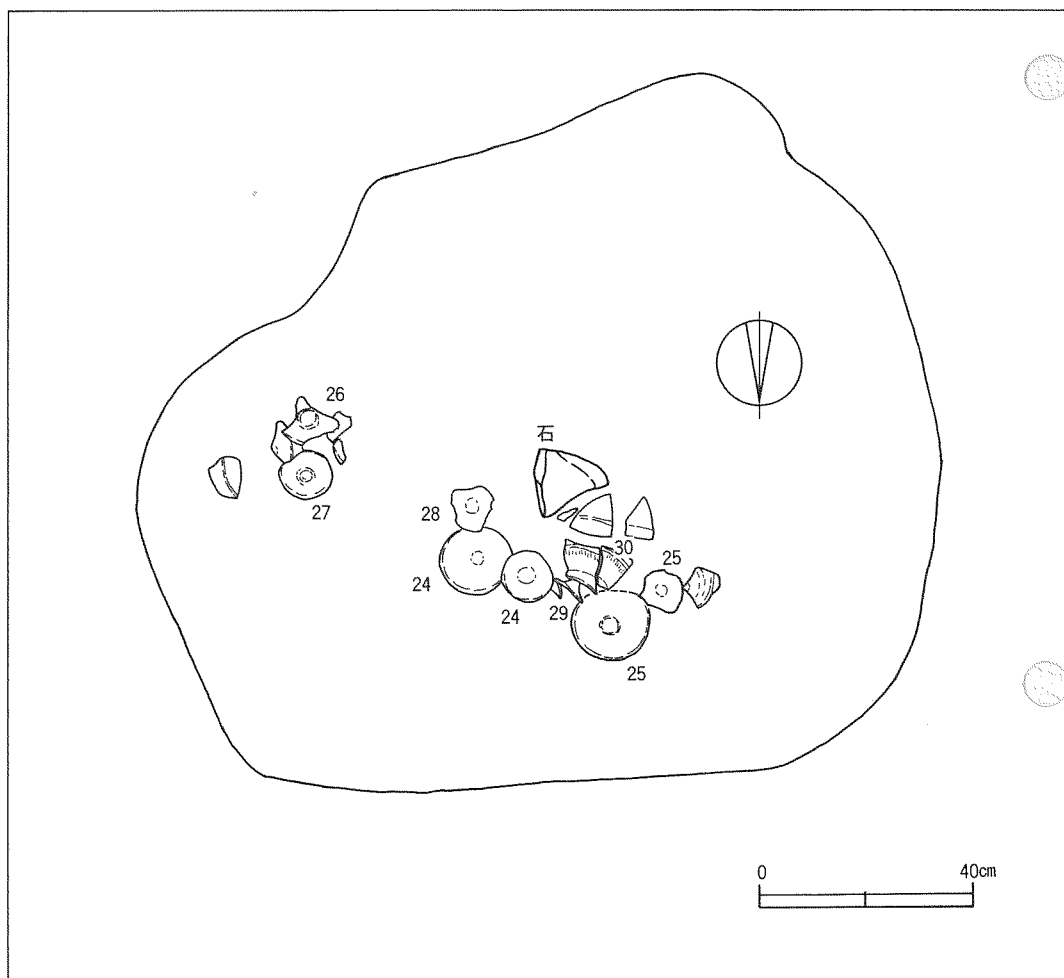
**大溝1** 調査区中央部で検出した。幅2.7～3.4m、深さ0.6～1.1mを測り、円弧状をなす。5 AGr. では幅約3.2m、深さ約1.1m（検出面より）を測り、埋土は黒褐色砂シルトである。5 BGr. から緩く曲がって4 BGr. に向かう。4 BGr. では埋土は地山の崩れた砂を多く含んだ茶褐色の強い黒褐色砂シルトである（調査時SD02と仮称）。幅約1.3m、深さ約0.7m（検出面より）を測る。この南側はSD01の開削によって壊されている。3 BGr. では4 BGr. から続く部分と、その南側で黒褐色砂シルトを埋土とする部分（SD03と仮称）を検出した。SD03は南へ下がっており北肩部分を検出したに留まり、大部分は調査区外である。2 BGr. では調査区の外を通過していたSD03が再び北へ向かって曲がって来部分にあたり、深さ約1.0m（検出面より）を測る。SD03は北方向へ緩やかに曲がり、



第7図 調査区北壁大溝断面図

2 AGr. を通り調査区外へ続く。古墳時代後期の須恵器、土師器等が出土した。

**SK06** 4 BGr. SD02 下層で検出した。SD02掘削中須恵器が集中して出土したため、周辺を精査したところ土坑内であることが明らかとなった。SD02と、SD02とSD03の間に位置しているが埋土はSD02とよく似ており、SD02との前後関係は明らかにできなかった。長さ約1.5m、幅約1.1m、深さ約0.5m(検出面より)を測り、検出時の平面形は楕円形である。土坑内北東寄りの底よりやや浮いた状態で須恵器が出土した。須恵器は有蓋高坏坏部2点、脚部6点、短頸壺1点が出土した。高坏は坏部と脚部がすべて離れていた。短頸壺は下半部を欠いていた。



第8図 土坑SK06土器出土状態

## 2. 近世・近代の遺構

**SK01** 1 AGr. の北半で検出した。北は攪乱で壊されていたが、東側は調査区外へ続く。東西1.7m以上、南北3m以上、深さ約0.6m（検出面より）を測る。包含層である茶褐色砂シルトを掘り込んで作られ、底部は平坦である。なお検出面は叩きしめられていた。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

**SK03A** 1 A・1 BGr. の東寄りで検出した。東側は調査区外へ続く。東西1.5m以上、南北約3.5m、深さ0.6～0.95m（地山面より）を測る。包含層の茶褐色砂シルトを掘り込んで作られている。初めSK03Bと同じ遺構と思われたのでSK03として遺物を取り上げていたが、地山面まで掘削したところ異なることが判り以後A、Bに分けた。埋土は上層炭化物を多く含む暗茶褐色砂で下層は茶褐色砂シルトである。掘り方の形状からさらにもう一つの遺構と重複していると考えられたのでSK04としたが遺物はほとんど混在して取り上げている。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

**SK03B** 1 BGr. 南西部で検出した。東西約2.5m、南北約3.2m、深さ約1.2m（検出面より）を測り楕円形をなしている。包含層の茶褐色砂シルト土を掘り込んで作られている。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

**SK05** 1 AGr. 西側で検出した。SK01を切って掘られている。東西約1m、南北約4.5m、深さ0.4～0.5m（検出面より）を測る。叩きしめられている茶褐色砂シルト土を掘り込んで作られている。埋土は茶褐色砂シルト土である。下層にいく程砂が多い。北側が深くなっている。土坑というよりは整地土層の可能性が強い。遺物はほとんどない。

**SK07** 6 BGr. 東北隅で検出した。径約1.0×1.5mの楕円形をしている。深さ約0.75m（地山面より）を測る。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器、瓦等が出土した。

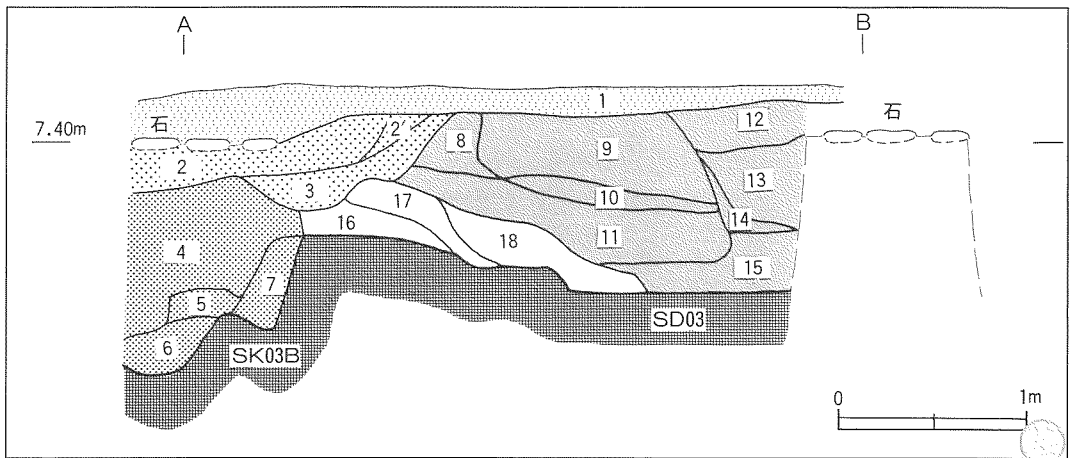
**SK08** 6 AGr. で検出した。東西約4.5m、南北約5.0m、深さ0.3～0.7m（地山面より）を測る。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器、瓦等が出土した。

**SK17** 6 AGr. 西側で検出した。調査区西側へ続く。東西3m以上、南北約3.0m、深さ0.8～1.3m（地山面より）を測る。南側は現代の攪乱で壊されている。埋土は炭化物が多く混じる。初めSK14を内側で検出したが、断面観察の結果SK17の中央部分の埋土であることが判った。19世紀代の陶器、磁器、土製人形等が出土した。

**SD01** 4 B・5 B・6 BGr. の調査区南壁に沿って検出した素掘りの溝。幅約0.9m、深さ約1m（検出面より）を測る。部分的に深い所があるが底部はほぼ平坦である。東西方向に約15.3m検出したが、西端で直角に南に曲がる。また東端部分も南へ曲がっているが東端に比べて緩やかである。埋土は淡茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

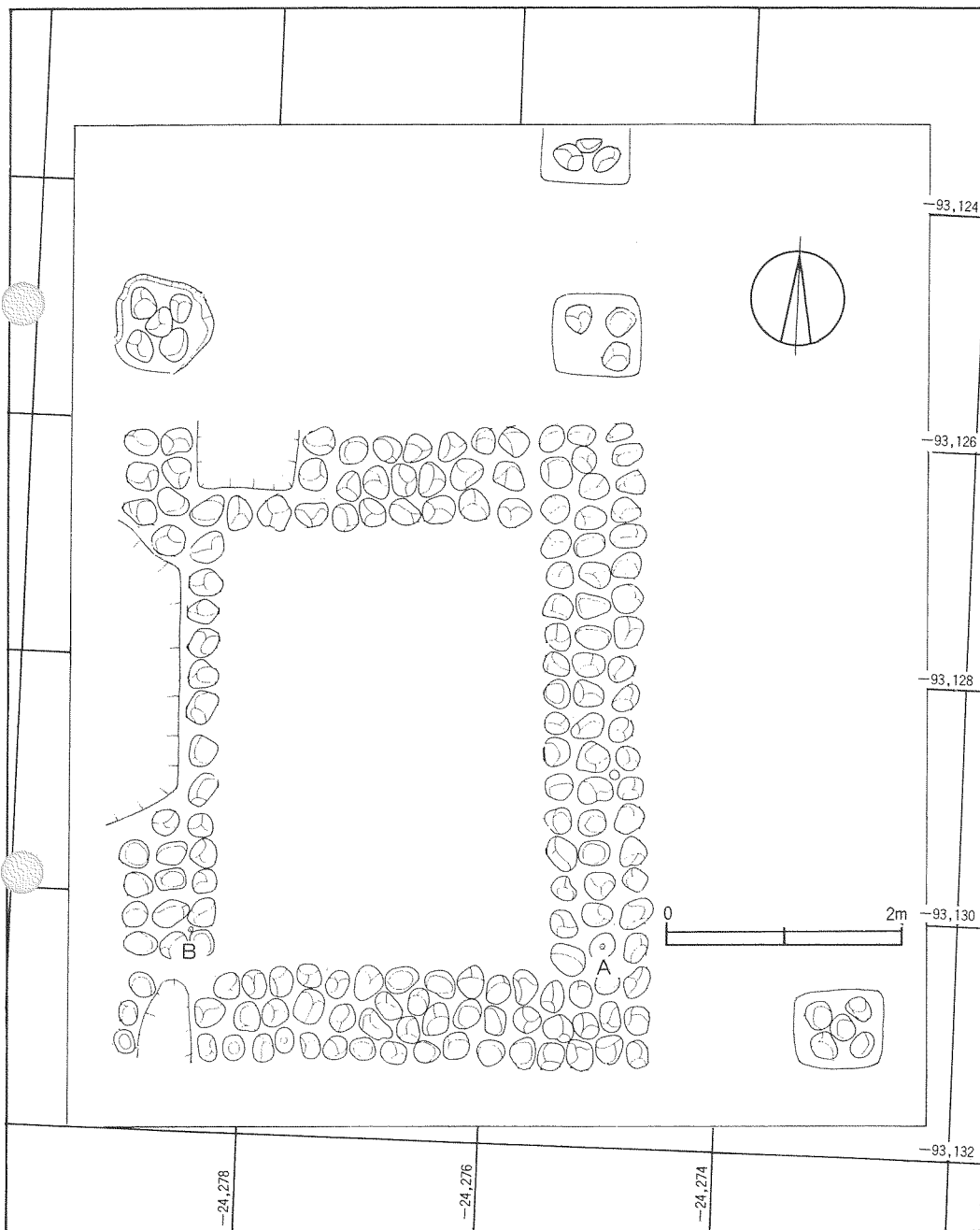
## 2. 近世・近代の遺構

石敷き（挿図10 写真図版2-2） 2A・2BGr. で検出した。東西約4.5m、南北約5.4mを測り口字状に一周する。石は径0.2~0.3mの扁平な河原石を使用し、各辺とも3列ずつに並べている。どの辺とも面を揃え整然と並べているが南西部はやや乱れている。東辺の西側では掘り方を検出した。この石敷きに囲まれた内側ではこれに伴う遺構は検出されなかったが、石敷きの上位層は叩き締められて、面をなしていた。また石敷きの北側では、5個1単位のやはり扁平な河原石を使用した礎石を約0.5m離れて2箇所、2.5m離れて1箇所検出した。その内、西側の礎石は地山面で検出した長さ約0.8m、深さ約0.12mのPit内に並べられていた。東の礎石は包含層を掘り込んで据えられていたため掘り方を検出することはできなかったが西側同様のPitに据えられていたと思われる。両者の間中心で約3.7mを測る。東側でも約1.4m離れて同様に5個1単位の礎石を1箇所検出した。これらは石敷きに何らかの形で関係する礎石群と考えられる。石敷き掘り方内より19世紀代の陶器等が出土した。

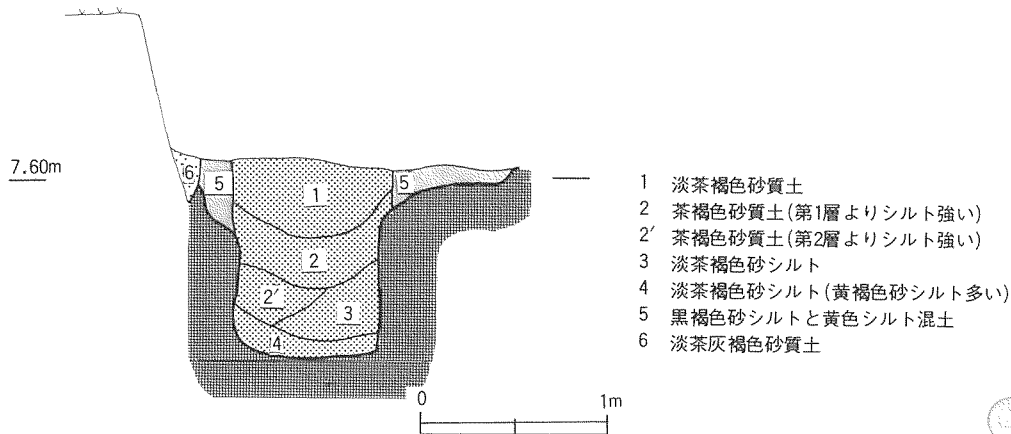


- |                              |                                       |
|------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰褐色砂シルト(1~5mm大砂粒多い。近世陶磁含む) | 10 黒褐色砂シルト(黄色砂少し含む)                   |
| 2 茶褐色砂シルト                    | 11 黒褐色砂シルト(第9層より砂質。10cm大の砂粒ブロック含む)    |
| 2' 茶褐色砂シルト(3~5mm大の小石含む)      | 12 茶褐色砂シルト(色調は第3層に似る。1cm大の鉄分の沈着多い)    |
| 3 茶褐色砂シルト(第2、2'層より粘質)        | 13 暗茶灰色砂シルト(砂質)                       |
| 4 茶褐色砂シルト                    | 14 茶褐色砂シルト                            |
| 5 茶褐色砂シルト(黄褐色砂含む)            | 15 黒褐色砂シルト(砂粒多い。1cm大の暗褐色シルトブロック多い)    |
| 6 茶褐色砂シルト(黄褐色砂多い)            | 16 黄褐色砂シルト(黄褐色砂に5cm大の暗褐色シルトブロック多く混じる) |
| 7 茶褐色砂シルト(黄褐色砂多い)            | 17 黄褐色砂シルト(地山崩れの砂多い)                  |
| 8 黒褐色砂シルト(砂質)                | 18 暗褐色砂シルト                            |
| 9 黒褐色砂シルト(第8層より粘質。土器片多く含む)   | (暗褐色砂シルトブロックに5~10cm大黄色砂ブロック混じる)       |

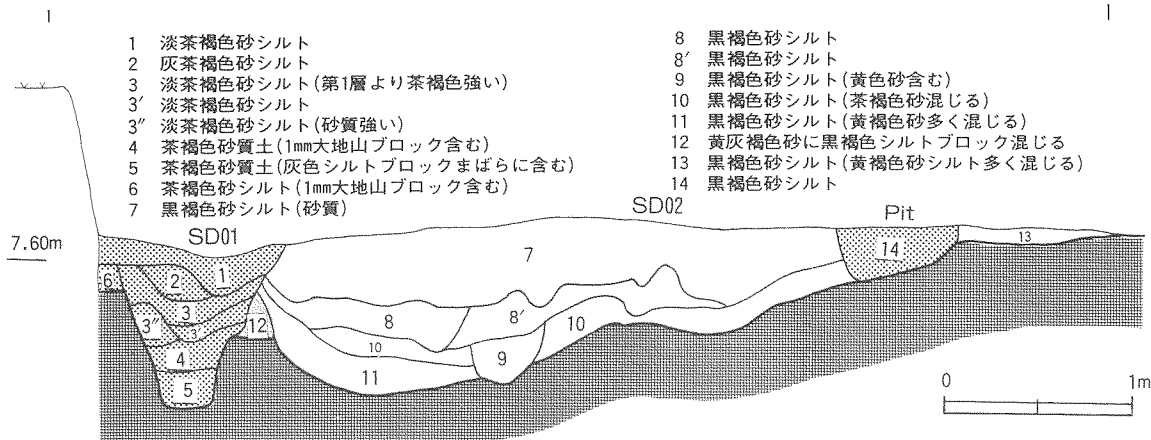
第9図 2BGr. 石敷き・SD03断面図(A-B間 北面)



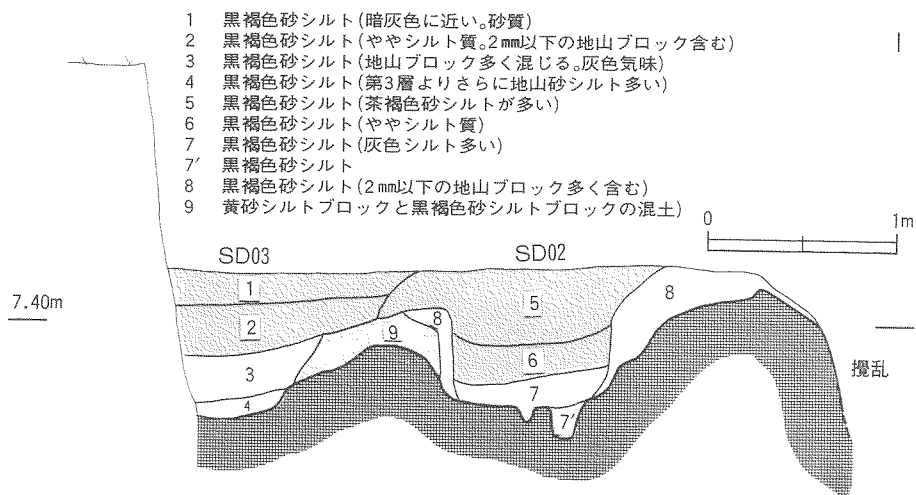
第10図 石敷き平面図



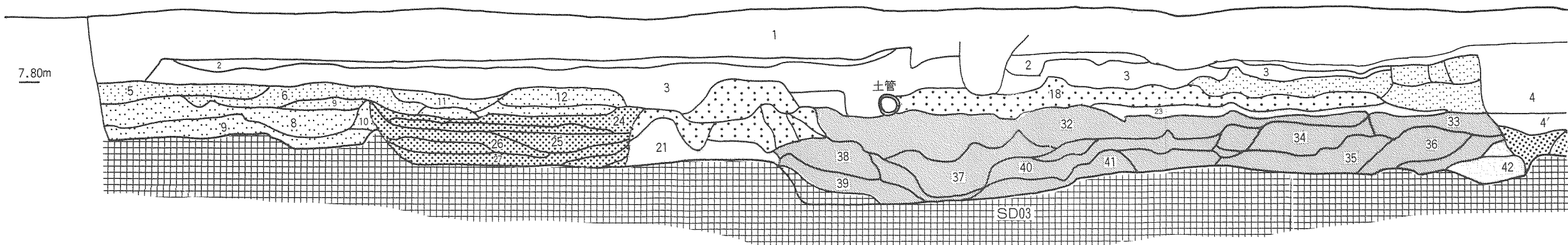
第11図 5BGr. SD01 断面図(東面)



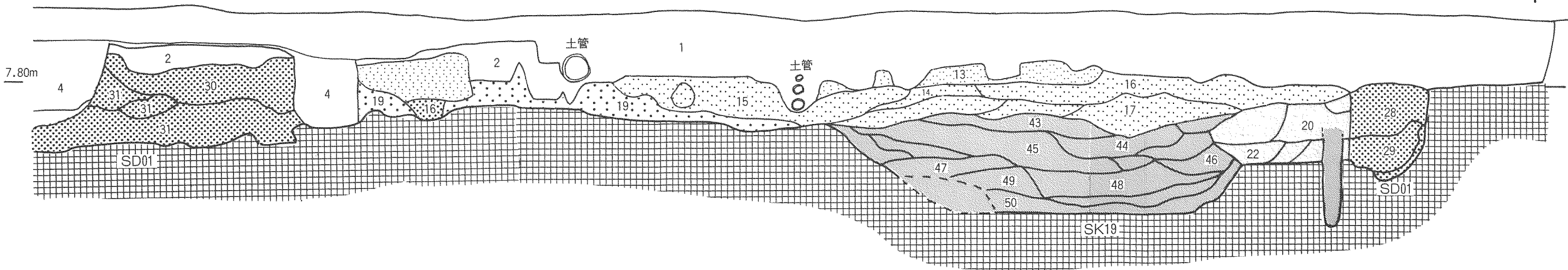
第12図 4BGr.・5BGr.間土層図(東面)



第13図 3BGr.・4BGr.間土層図(東面)



- |                                |  |                                 |
|--------------------------------|--|---------------------------------|
| 1 表土                           | 17 暗黄褐色砂シルト(黄褐色シルトブロックと黒褐色シルトブロックが混じる) | 34 黒褐色砂シルト(シルト質土)               |
| 2 暗褐色砂                         | 18 黒褐色砂シルト(褐色が強い)                      | 35 黒褐色砂シルト                      |
| 3 暗褐色砂シルト                      | 19 黒褐色砂シルト(0.2~0.3cm大の地山砂多く含む)         | 36 黒褐色砂シルト(黄色ブロック含む)            |
| 4 焼土(攪乱坑)                      | 20 暗黄色砂シルト                             | 37 灰褐色砂シルト                      |
| 4' 暗灰褐色砂(攪乱坑下層)                | 21 黄褐色砂                                | 38 褐黄灰色砂シルト                     |
| 5 茶褐色砂シルト(3層に似る)               | 22 黄褐色砂                                | 39 暗黄褐色砂                        |
| 6 茶褐色砂シルト(5mm大黄色シルトブロックまばらに含む) | 23 黄褐色砂                                | 40 暗褐色砂シルト                      |
| 7 茶褐色砂シルト(1~2cm大黄色シルトブロック密に含む) | 24 暗黄灰色砂シルト(砂質土) 24~27層=近世土埋土          | 41 暗褐色砂シルト(褐色シルトと黄褐色砂ブロック半々に含む) |
| 8 茶褐色砂シルト                      | 25 灰褐色砂シルト(砂質土)                        | 42 暗黄褐色砂(褐色シルトまばらに含む)           |
| 9 暗茶褐色砂シルト                     | 26 黄褐色砂シルト(砂質土)                        | 43 褐色砂シルト 43~50層=SK19埋土         |
| 10 暗褐色砂シルト(砂質土)                | 27 灰褐色砂シルト                             | 44 黒褐色砂シルト(黄褐色砂ブロックを少量含む)       |
| 11 暗褐色砂シルト(3層に似る)              | 28 黒褐色砂シルト 28~29、30~31層=SD01埋土         | 45 暗褐色砂シルト                      |
| 12 灰褐色砂シルト(砂質土)                | 29 黒褐色砂シルト                             | 46 褐色砂シルト(5mm大の黄色シルト密に含む)       |
| 13 暗褐色砂シルト                     | 30 暗灰褐色砂                               | 47 暗褐色砂シルト(5mm弱大黄色シルト密に含む)      |
| 14 暗褐色砂シルト(黄色砂と褐色シルトが混じる)      | 31 暗茶褐色砂                               | 48 暗褐色砂シルト                      |
| 15 暗褐色砂(5cm大黄色砂ブロック多く含む)       | 32 黒褐色砂シルト(鉄分の沈着多い) 32~41層=SD03埋土      | 49 暗褐色砂シルト(5mm弱大黄色シルトまばらに含む)    |
| 16 暗灰褐色砂シルト                    | 33 黒褐色砂シルト(シルト質土、暗褐色強い)                | 50 黄褐色砂シルト(黄色シルトブロックを含む)        |



第14図 調査区南壁土層図 (S = 1/50)



## 2. 遺物

### 1. 縄文時代


包含層中や近世、近代の土坑中から土器細片が十数点の他、礫石錘1点が出土している。

### 2. 弥生時代

後期山中式の壺口縁部片（写真5-1）や後期欠山式の高坏脚部片（写真5-5）等数点出土している。底部に網代痕のある破片もある。

### 3. 古墳時代

前期の土器はS字状口縁台付甕の口縁部片があるが、土師器は小片のため時期が明らかになるのはほとんどない。

中期以降の土器は土師器、須恵器がある。


土師器は高坏の脚部片（写真5-3、4、6）の他甕の口縁部片等がある。（写真5-2）はS字状口縁台付甕の最末の形態に似る。

須恵器（写真6・7・8・9）は包含層、近世、近代の土坑の他、大溝より多く出土したが、時期に幅がある。

5世紀後半～6世紀初頭のものとして、坏身、坏蓋、高坏、無蓋高坏、短頸壺、摺鉢、器台等がある。高坏6点と短頸壺はSK06より一括出土したもので、高坏は胎土に白色砂粒が多く、焼成が悪い点で類似する。摺鉢は体部外面に線刻がある。

6世紀代のものとして、坏身、提瓶等がある。

7世紀代のものとして、坏身、甕、臙、横瓶等がある。甕はほぼ完形で溝底近くに横転した状態で出土した。

土器以外では埴輪（写真9-11～17）、土製紡錘車（写真10-2）、鉄製品（写真10-1）、須恵質土錘等がある。埴輪はいずれも細片で、同一の胎土、色調をしている。SD より出土した。

### 4. 奈良時代から平安時代

須恵器の破片の中にはこの時代に下るものがあるかもしれないが、ほとんどない。

### 5. 鎌倉時代（写真10-4～13）

山茶碗類、小皿類が少量ある。4 AGr. P27出土の碗や6 BGr. P4の小皿を除いて小片である。

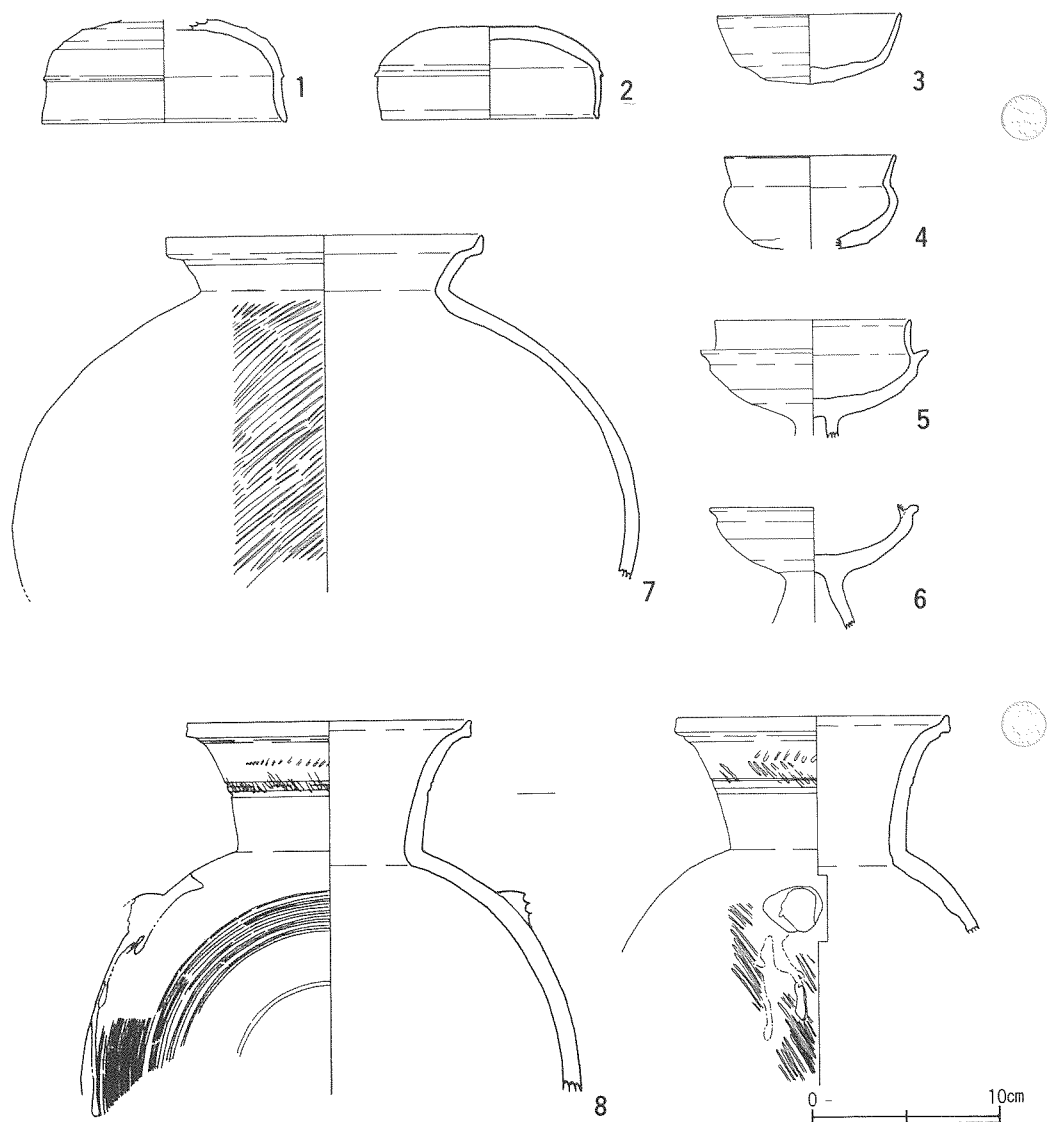
### 6. 江戸時代（写真11～22）

出土遺物の7、8割を占めている。特にSD01、SK01、SK03B、SK14から多く出土した。17世紀代のものごくわずかで大方19世紀代のものである。陶器が圧倒的に多く、碗、皿、蓋、灯明具、壺、鉢、摺鉢、水瓶、徳利、水鉢、土瓶、植木鉢、水滴等がある。

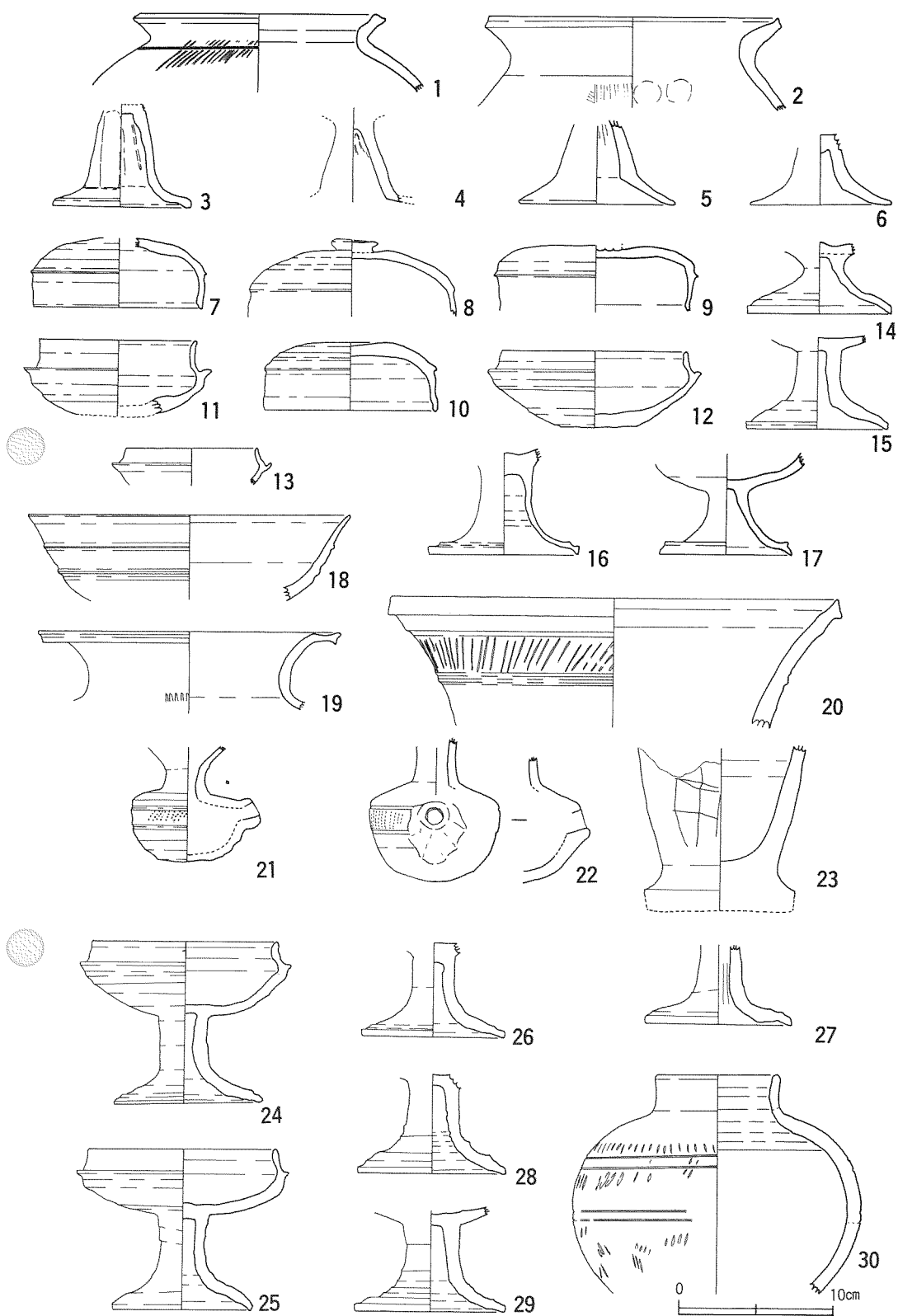
素焼きの土器として、大甕、鉢、焼塩壺、土師皿、内耳鍋等がある。磁器として、碗、水滴、紅皿等がある。他に瓦、古銭、砥石、土人形、泥面子様土製品、円盤状陶製品等がある。また、底部に墨書のある陶器も何点かある。

### 7. 明治時代以降

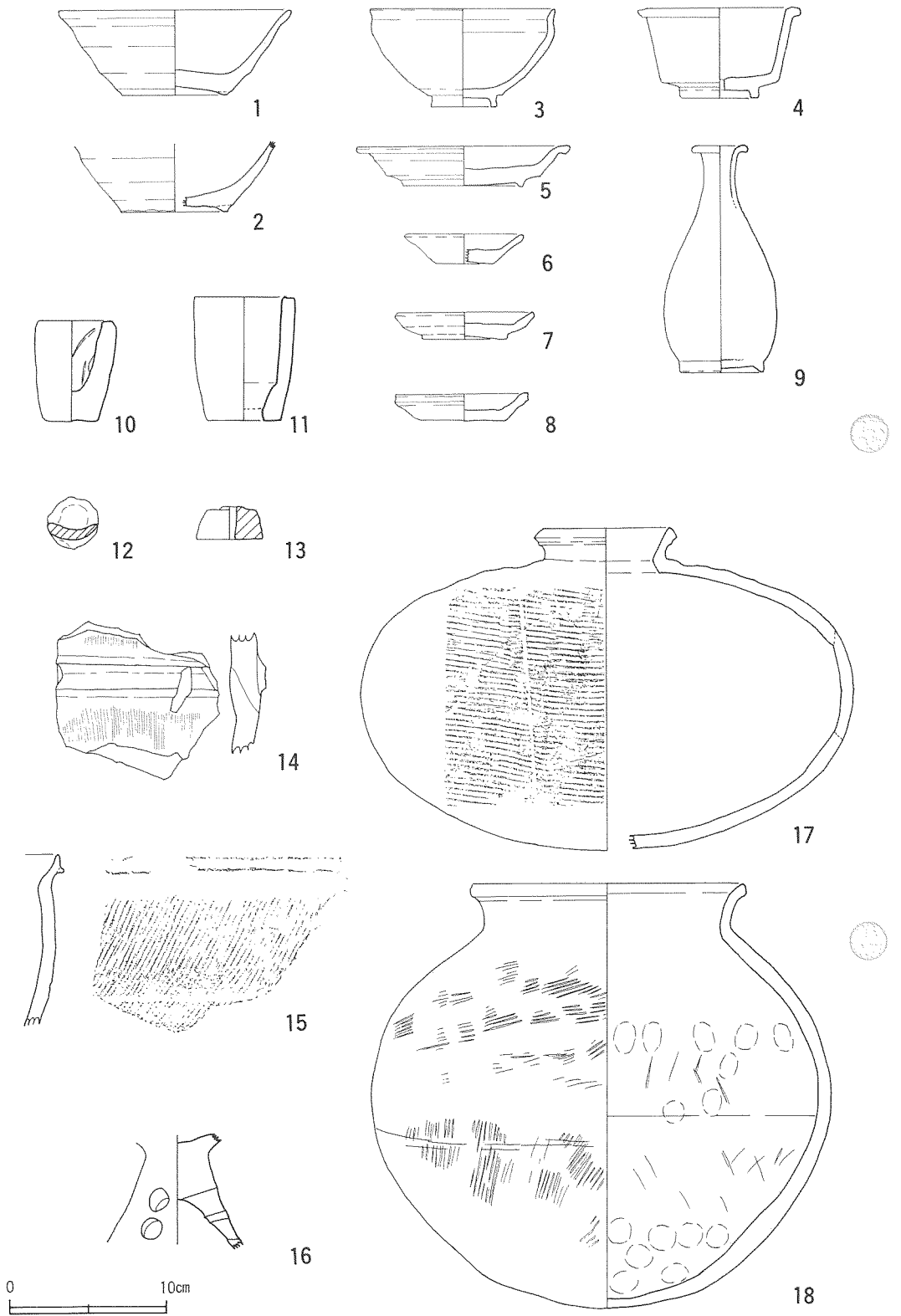
湯のみ茶碗底部に「中村・内宮前伊勢物産□□」と書かれたものがある。



第15図 遺物実測図1



第16图 遺物実測图 2



第17图 遺物実測図 3

## V. ま と め

従来、豎三蔵通遺跡の調査は台地西縁において行われて来たが、今回の調査地点はかつて紫川が流れていた小規模な開析谷に面した台地東南部にあたり、広大な面積を持つ本遺跡の中では初めての東側における調査となった。調査面積自体は約 290㎡と狭いながらもいくつかの新知見を得ることができた。

1. 古墳時代の幅約 3 m、深さ約 1 m の規模の溝を検出した。この溝は、調査区の北側は不明なものの東西で内径約 15 m、外径約 21 m の円弧をなしていることが明らかとなった。

この溝の性格については、形状、規模から古墳の周溝の可能性があるとされる。

ただし、墳丘や埋葬施設が確認できていないため、古墳跡と断定するにはまだ材料を欠いており、古墳か否かの結論は将来に持ち越すことにしたい。

また溝の時期について、溝内より出土している須恵器から検討してみると、須恵器は、尾張地方の須恵器編年という 5 世紀末から 6 世紀初頭のものが目立つものの、6 世紀から 7 世紀代のものも含まれている。よって溝は 7 世紀前半から中半頃掘削されたと推測される。


2. 中世の遺構は 4 AGr.、6 BGr. でピットをいくつか検出したのみで遺物も少ない。

3. 近世末～明治時代と考えられる土坑を検出した。土坑より出土した遺物は主として陶磁器であるが、SK14からは多数の陶磁器に混じって土人形が多く出土した。これらは当時の生活様式を知る上で貴重といえよう。特に土人形は精神文化をさぐる上で注目される。<sup>2)</sup>

また、石敷きは市内で初めて検出したものである。この用途（性格）を考えるにあたって次にあげる事例が参考となる。神奈川県小田原城米曲輪で長軸 15 間、短軸 3 間の長方形石列 3 基が検出された。この「石列は幅 1 m 前後で人頭大の礫を敷きつめ」たもので米蔵と想定される倉庫の基礎と考えられている。<sup>4)</sup>更に東京大学構内加賀藩梅之御殿跡で蔵跡と考えられる遺構が検出された。この遺構は「方形に布掘りを施した後、掘り方内に礫を充填した」工法をとっていたようである。こうした工法は、地盤が固い台地上に建てられる土蔵に用いられる工法と考えられており、簡単な構造をしている。<sup>6)</sup>

こうした例から建物の規模こそ異なるものの、今回検出した石敷きは土蔵の基礎と考えることができるだろう。また検出した位置が御園通に面した屋敷地の一番奥まった所でもあることから土蔵である可能性は強いと思われる。しかし、壺庭のようなものかもしれないとの意見もあり、さらに類例の検討を通して考えていきたい。構築時期は近世末から明治時代と思われるが、SD01と共に名古屋城下町における屋敷地の利用について知る重要な遺構である。

## 註

- 1) 『第三次豎三蔵通遺跡発掘調査概要報告書』 1986 名古屋市教育委員会 第I章
- 2) 明治から昭和のはじめにかけては、御器所を中心に数軒の土人形製作者がいたが、現在では野田末吉氏ただ1人である。(浅野しんじ 「名古屋土人形に思う」朝日新聞 1987年1月17日付夕刊)
- 3) 塚田順正 「江戸時代の遺跡を掘る 城」『季刊考古学13号』 1985 雄山閣 P.57、Q.39~40
- 4) 塚田順正 「江戸時代の遺跡を掘る 城」『季刊考古学13号』 1985 雄山閣
- 5) 古泉弘 『江戸の考古学』 1987 ニューサイエンス社 P.61 Q.10~11
- 6) 旧紫川遺跡では谷地形を埋め立てた整地層で建物礎石を多数検出している。こには、地中深く丸太杭を打ち込みその上に数段重ねて人頭大の河原石を積んで礎石としている例がある。地盤の軟らかい土地に建てる場合の工法の一つであろう。『旧名古屋城下町遺構発掘調査概要報告書(V)』 1986 名古屋市教育委員会 P.6



## 遺物観察表

挿図番号 (写真図版)	地区 出土地	種類 器種	法量	形態・技法の特徴	胎土 色調 焼成	備考
15-1	1 BGr. SK03A	須恵器 坏蓋	口径 13.0cm	体部と口縁部の稜は丸みを持つ。口縁端部は外湾気味で丸くおさめる。体部内面、口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	密 青灰色 良好	天井部鈕外れる。ヘラケズリ右回り
15-2	6 AGr. SK14	須恵器 坏蓋	口径 11.5cm 器高 4.9cm	体部は垂直に下方にのびる。稜は鋭い。天井部はヘラケズリ調整。	密 青灰色 良好	2分の1存
15-3	2 AGr. 包含層	須恵器 坏身	口径 9.8cm 器高 3.7cm	底部はやや丸みを持ち体部は外方へ延びる。口縁端部は丸くおさめる。底部外面ヘラケズリ。底部内面、体部内外面ヨコナデ。	密 淡灰褐色 良好	完形
15-4	2 BGr. SK03B	須恵器 短頸壺	口径 9.0cm 器高 4.9cm	内外面ヨコナデ調整。底部外面不定方向のヘラケズリ調整。	密 青灰色 良好	3分の1存
15-5	2 AGr. 包含層	須恵器 高坏	口径 10.4cm	受部は水平やや上方へ延びる。口縁部は丸くおさめる。体部内面、口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。脚部との接合部ナデ。	密 淡黄灰色 やや良	
15-6	1 BGr. SK03A 大溝	須恵器 高坏	受部径 11cm	受部は水平に近く、端部は丸みを持つ。坏部内面ヨコナデ。外面下半ヘラケズリ。脚部外面ナデ。	密 淡灰青色 良好	口縁部、脚端部を欠失する
15-7 (6-5)	5 AGr. 大溝	須恵器 甗	口径 16.8cm	口縁部は受け口をなす。体部外面に斜め方向の平行タタキ。口縁部から頸部にかけてヨコナデ調整。内面ナデ調整。	密 青灰色 青灰色 良好	胴下半部欠損
15-8 (6-8)	5 BGr. 大溝	須恵器 提瓶	口径 15.0cm	口縁部は受け口をなす。把手は欠損する。頸部に二条の沈線がめぐる。体部前面にカキ目。	密 青灰色 良好	胴下半部欠損 口縁部、体部前面に自然釉
16-1 (5-2)	4 AGr. PI0	土師器 甗	口径 15.2cm	口縁部は外方に開く。端部は面をもちやや窪む。体部にタテハケを施す。	密 赤褐色 良好	4分の1存
16-2	3 BGr. SD03	土師器 甗	口径 18.6cm	口縁部はくの字に外反し、端部は上方へとがる。口縁部ヨコナデ調整。体部タテハケ。	密 明黄白 色 良好	口縁部4分の1存
16-3 (5-3)	5 BGr. 大溝	土師器 高坏	底径 8.7cm	基部は直線的に下がり、裾部で短く外半する。外面ヘラケズリ後ナデ調整。裾部ナデ調整。	密 細かい 白色砂粒含む 赤褐色 良好	
16-4	2 AGr. SD03	土師器 高坏	基部径2.5cm	基部は中ほどややふくらみ裾部にいたる。	密 1mm大の 砂粒を含む 赤褐色 良好	
16-5 (5-4)	3 BGr. 間6層	土師器 高坏	底径 10.0cm	基部は内湾気味に下がり、裾部でさらにひろがる。外面ヨコナデ調整。基部内面にしぼり目。	密0.5~2mm大の 砂粒多く含む 赤褐色 良好	2分の1存
16-6 (5-3)	3 BGr. SD03	土師器 高坏	底径 10.0cm	表面摩滅し調整不明。	密0.5mm大砂粒 多い 橙灰色 良好	
16-7 (6-1)	5 AGr. 大溝	須恵器 坏蓋	口径 10.8cm 器高 4.5cm	体部はやや内湾気味にのび、端部は内傾する段をもつ。天井部は高く丸い。稜は鋭い。天井部2分の1ヘラケズリ調整。他はヨコナデ調整。	密 灰青色 良好	2分の1存
16-8 (9-9)	4 BGr. 大溝	須恵器 坏蓋		体部は垂直にのびる。天井部はやや丸い。天井部頂部に鈕がつく。天井部2分の1ヘラケズリ調整。	密0.5~1mm 大砂粒含む 灰白色 不良	

16-9 (9-7)	5BGr. 大溝	須恵器 坏蓋	口径 12.4cm	体部は垂直にのびる。端部は欠損するが段をもつ。天井部は窪み、鉸がはずれる。稜は鋭い。天井部、体部に自然釉がかり調整不明瞭。内面ヨコナデ調整。	密 青灰色 良好	6分の1存
16-10 (9-6)	6AGr. 大溝	須恵器 坏蓋	口径 11.0cm 器高 4.3cm	体部は垂直にのび、端部は丸い。天井部は窪む。天井部は自然釉がかりヘラケズリ調整不明瞭。他はヨコナデ調整。	密 青灰色 良好	4分の1存
16-11 (9-10)	5A 5BGr. 大溝	須恵器 坏身	口径 10.0cm	たちあがりは垂直にのびる。口縁端部は平らで内傾する。受部は断面三角形で上外方へのびる。底部2分の1ヘラケズリ調整。他はヨコナデ調整。	密 濃青灰色 良好	受部4分の1存
16-12 (6-2)	4BGr. SD02	須恵器 坏身	口径 12.0cm 器高 5.0cm	たちあがりは内傾し、端部はまるい。底部はほぼヘラケズリ調整。他はヨコナデ調整。	密 橙灰色 良好	ほぼ完形
16-13	5AGr. 大溝	須恵器 坏身	口径 8.6cm	口径が小さい。たちあがりは内傾し、端部は丸い。ヨコナデ調整。	密 暗灰青色 良好	
16-14 (7-9)	5BGr. 大溝	須恵器 高坏	底径9.2cm 基部径2.5cm 脚高3.5cm	坏部との接合部から外方へ広がる。裾部はやや内湾気味。内外面ヨコナデ。	密 白色砂粒 筋状に入る 淡灰色 良好	坏部欠損
16-15 (7-10)	4BGr. SD02と SD03 の間	須恵器 高坏	底径9.0cm 基部径2.8cm 脚高5.0cm	やや細い基部は直接的に下方へのび、裾部は外方へ広がる。内外面ヨコナデ調整。	密 0.1mm大白 色砂粒含む 淡青灰色 良好	坏部欠損
16-16	4BGr. 大溝	須恵器 高坏	底径9.6cm 基部径3.3cm 脚高5.7cm	器壁がたいへん薄い。基部は直接的に下方へのび、裾部は外方へ開く。端部はとがり気味。内外面ヨコナデ調整。	密 0.5mm大白 色砂粒含む 褐灰色一部 淡橙色 やや良好	坏部欠損
16-17 (7-8)	2BGr. SD03	須恵器 高坏	底部径8.6cm 脚高4.0cm	脚部は外反気味に広がり裾部は少し平坦面をつくる。	密 灰青色 良好	
16-18 (8-7)	5AGr. 大溝	須恵器 無蓋 高坏	口径 20.6cm	坏部・口縁部は外方にひろがり、端部は丸い。体部に鈍い凸帯、口縁部との境に鋭い凸帯がめぐる。	密 0.5mm大の 砂粒やや多く 含む 青灰色 良好	8分の1存
16-19 (8-3)	4BGr.	須恵器 甕	口径 19.4cm	口縁部内外面ヨコナデ調整。頸部にタタキ目。頸部内面ナデ調整。	密 淡青灰色 良好	
16-20 (8-6)	5AGr. 大溝	須恵器 甕	口径 26.7cm	二条の沈線がめぐり、その上方に斜線文がめぐる。	密 淡青灰色 良好	4分の1存
16-21 (6-3)	5BGr. 大溝	須恵器 甕	基部径3.2cm	頸部は短く口縁部へつながる。体部最大径の位置に沈線が施され、その下に4点1単位の縦位刺突文がめぐる。その下にさらに沈線が施される。体部やや上方に体部より突出して円孔部がつく。底部はやや平坦部をもつ。体部上半はヨコナデ調整。下半より底部はヘラケズリ調整。	密 0.5mm大の 砂粒含む 淡灰白色 良好	ヘラケズリ右回り
16-22 (6-4)	3BGr. SD03	須恵器 甕	基部径2.8cm 残存高9.0cm	肩部は直線的に下方へさがり体部にいたる。体部最大径のやや上位に1条、下位にも1条の沈線が施され、その間には縦位刺突文が巡る。その後ゆるやかに底部にいたる。底部は丸底である。体部最大径のところに円孔を穿つ。ヨコナデ調整。	密 淡黄白色 良好	口縁部、頸部を欠損する。体部完形



16-23 (7-1)	5BGr. 包含層	須恵器 摺鉢	底径 9.6cm	体部は外方へ延び、底部は外湾気味斜め下方へ延びる。	密 白色砂粒多い 灰茶褐色 底部内面 灰青色 良好	口縁部欠損 体部に線刻を持つ。
16-24 (7-4)	4BGr. SK06	須恵器 高 坏	口径 11.8cm 器高 10.4cm 底径 9.5cm 基部径 3.2cm 脚高 5.6cm	坏部・底部は平底で丸味を持つ体部につながる。受部は短くほぼ水平で端部は丸い。たちあがりは内傾したのち端部でわずかに外湾丸くおさめる。脚部・基部は直線的に下がり、裾部は外方へ延び端部は丸い。坏部体部内面口縁内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。脚部ヨコナデ。	やや粗 白色砂粒多く 筋状に入る 淡灰色 やや良	ヘラケズリ 右回り
16-25 (7-3)	4BGr. SK06	須恵器 高 坏	口径 12.0cm 器高 10.3cm 底径 8.8cm 基部径 3.2cm 脚高 5.9cm	坏部・底部は平底で比較的浅い。受部は短くほぼ水平で端部は丸い。たちあがりは内傾し端部は丸い。脚部・基部は下半やや外湾気味で裾部は内湾して下方へ延びる。端部は内傾し、とがり気味。坏部・内外面ヨコナデ底部外面ヘラケズリ。脚部・内外面ヨコナデ。基部外面は荒いヘラケズリがよくナデ消されていない。	やや粗 白色砂粒多い 淡灰色 やや良	ヘラケズリ 右回り
16-26	4BGr. SK06	須恵器 高 坏	底径 9.2cm 基部径 2.6cm 脚高 5.0cm	やや細い基部は直線的に下方へ延び、裾部は急に外方へ広がり、端部は内傾しとがり気味内外面ヨコナデ。基部外面は荒いヘラケズリをよくナデ消していない。	やや粗 白色砂粒含む 淡灰色 良	坏部欠損
16-27 (7-5)	4BGr. SK06	須恵器 高 坏 須恵器	底径 9.4cm 基部径 2.6cm	基部はやや細く、裾部は平坦面を作る。端部は外方にとがる。内外面ヨコナデ。基部内面にしぼり目。	やや粗 白色砂粒多い 淡青灰色 やや不良	坏部欠損
16-28 (7-7)	4BGr. SK06	須恵器 高 坏	底径 9.6cm 基部径 3.4cm 脚高 5.6cm	基部やや太く、裾部は立ち気味で斜め外方へ開く。端部は垂直に下る。基部内面ナデ。外面ヨコナデ。裾部内外面ヨコナデ。外面はヘラケズリをよくナデ消していない。	密 白色砂粒多い 淡灰青色 やや不良	坏部欠損
16-29 (7-6)	4BGr. SK06	須恵器 高 坏	底径 9.6cm 基部径 3.6cm 脚高 5.6cm	基部はやや太く、直線的に裾部につながり斜め外方へ延びる。内外面ヨコナデ。基部外面にヘラケズリの跡が明瞭に残る。	密 白色砂粒多い 淡青灰色 やや良	坏部欠損
16-30 (7-2)	4BGr. SK06	須恵器 短頸壺	口径 7.6cm	口頸部は短く立ち上がる。口縁端部は丸い。体部上半に2本の沈線と刻み目をめぐらす。体部下半は斜位のタタキ目。体部内面上半はヨコナデ。下半は縦方向のナデ調整。	密 0.5mm大の砂粒少量含む 灰白色 良好	底部欠損
17-1	4AGr. P4	陶器 碗	口径 14.6cm 器高 5.4cm 底径 6.6cm	「山茶碗」体部は直線的に外上方にのびる。口縁端部は上方につまみあげる。体部内外面ヨコナデ調整。見込みナデ調整。底部は糸切り痕をナデ消す。高台に靱痕。	粗 5mm大砂粒含む 灰色 良好	体部内面に自然釉
17-2 (10-8)	6BGr. 包含層	陶器 碗	底径 6.8cm	「山茶碗」体部は直線的に外上方にのびる。体部内外面ヨコナデ調整。底部内面ナデ調整。	密 灰色 良好	底部 3分の1 存
17-3	1ABGr. 東 壁	陶器 碗	口径 11.8cm 器高 6.2cm	「天目碗」底部は回転ヘラケズリ。	密 黄白色 釉は口縁白青色 体部褐色 良好	完形
17-4 (19-5)	5BGr. SD01	陶器 植木鉢	口径 10.2cm 器高 5.7cm	口縁部は外方へ折れる。赤染。	密 黄白色 良好	完形

17-5	6AGr. SK08	陶器 皿	口径 13.4cm 器高 2.5cm	体部下半から底部ヘラケズリ調整。内面に目跡3箇所。	密 黄白色 釉は黄緑色 良好	
17-6 (10-12)	5AGr. 焼土内	陶器 小皿	口径 7.6cm 底径 3.6cm 器高 1.9cm	「山茶碗」内外面ともヨコナデ調整。	密 0.5~2mm 大砂粒含む 明灰色 良好	口縁部4分の1存 底部2分の1存
17-7 (10-11)	4AGr. 包含層	陶器 小皿	口径 8.6cm 底径 5.2cm 器高 1.7cm	「山茶碗」内外面ともヨコナデ調整。	密 0.5mm大 の砂粒含む 明灰色 良好	6分の1存
17-8 (10-13)	6BGr. P4	陶器 小皿	口径 8.3cm 器高 1.7cm	「山茶碗」体部内外面ヨコナデ調整。見込みヨコナデ調整。底部糸切り痕。	粗 2~3mm大 の砂粒含む 暗灰色 良好	口縁部3分の2存
17-9 (15-8)	2BGr. 石敷き 掘方	陶器 水瓶	口径 6.2cm 器高 13.4cm	口縁部は外方水平に開き端部は丸い。全体に釉がかかる。瀬戸美濃産。	密 淡黄緑色 良好	完形
17-10 (14-8)	1BGr. SK03B	土器 焼塩壺	口径 4.6cm 器高 6.5cm 底径 3.4cm	器壁は厚く小型品。内面によじれた形で布目痕がつく。	密 0.5~3mm 大の砂粒を含む 赤褐色 良好	完形
17-11	2AGr. 石敷き 下 包含層	土器 焼塩壺	口径 6.4cm 器高 7.9cm	口縁部上面に蓋受けをもつ。	密 0.5mm大の 白色砂粒少量 含む 淡褐色	底部が欠落
17-12	6AGr. SK08	土製品 泥面子	直径 3.2cm	手づくねによる。表面に布痕、裏面に指押さえ痕がつく。	密 淡橙色 良好	完形
17-13 (10-2)	3AGr. 包含層	土製品 紡錘車	上径 3.1cm 底径 4.2cm 高さ 2.0cm	円錐台形をしている。穿孔時の粘土のはみだしが上面にみられる。全面ナデ調整。黒斑がつく。	密 橙褐色 良好	完形
17-14 (9-12)	1BGr. 包含層	土製品 埴輪		円筒埴輪。厚い器壁に扁平なタガがつく。外面タテハケ。	密 1~2mm大 の砂粒少量含む 淡黄白色 良好	
17-15 (8-11)	5AGr. 大溝	須恵器 鉢	口径 56.0cm	口縁部に凸帯がめぐる。口縁部ヨコナデ調整。体部外面平行タタキ。内面ナデ調整。	やや粗 白色 砂粒多く含む 淡赤褐色 良好	
17-16 (5-5)	2BGr. 石敷き南 SD03	弥生土器 高環		3方2段透かし。	密 砂粒少量含む 明褐色	
17-17 (6-6)	5AGr. 大溝	須恵器 横瓶	口径 8.0cm 器高 20.4cm	口頸部は短く外反し。口縁部直下に突帯がめぐる。体部外面に平行タタキ目。ほぼ中央に縦方向に一条の沈線。体部内面はナデ調整。	密 青灰色 良好	体部の横半分を欠損。
17-18 (6-7)	5AGr. 大溝	須恵器 甕	口径 17.2cm 器高 27.1cm	口縁部は短く外反し、端部は上方へとがり気味。端部の下方に鈍い凸帯がめぐる。胴部は球形をなし、丸底にいたる。外面は口縁部はヨコナデ調整。体部は平行タタキ後ナデ調整。内面は口縁部から肩部にかけてヨコナデ調整。体部はナデ調整。	密 0.5~2mm 大の砂粒含む 灰青色 良好	口縁部と底部の一部を欠損

# 写真図版掲載遺物一覽表

弥生土器・土師器・須恵器

写真番号	地区	出土地	種類	壺	甕	高	坏
5-1	1BGr.	SK03B9層	弥生土器				
2	4AGr.	P10	土師器				
3	3BGr.	SD03	土師器	高			坏
4	3B4B間	6層	土師器	高			坏
5	2BGr.	SD03	弥生土器	高			坏
6	5BGr.	大溝	土師器	高			坏
6-1	5AGr.	大溝	坏				
2	4BGr.	SD02	坏				
3	5BGr.	大溝	甕				
4	3BGr.	SD03	甕				
5	5AGr.	大溝	甕				
6	5BGr.	大溝	横瓶				
7	5AGr.	大溝	甕				
8	5BGr.	大溝	提摺瓶				
7-1	5BGr.	大溝	摺摺鉢				
2	4BGr.	SK06	短頸壺				
3	4BGr.	SK06	高坏				
4	4BGr.	SK06	高坏				
5	4BGr.	SK06	高坏				
6	4BGr.	SK06	高坏				
7	4BGr.	SK06	高坏				
8	2BGr.	SD03	高坏				
9	5BGr.	大溝	高坏				
10	4BGr.	SD02、03間	高坏				
8-1	5AGr.	大溝	甕				
2	5AGr.	大溝	甕				
3	4BGr.	大溝	甕				
4		大溝	甕				
5	5AGr.	大溝	甕				
6	5AGr.	大溝	甕				
7	5AGr.	大溝	無蓋高坏				
8	6AGr.	大溝	無蓋高坏				
9	5AGr.	大溝	器台				
10	5AGr.	大溝	器台				
11	5AGr.	大溝	鉢				
12	5AGr.	大溝	器台				
13	5AGr.	大溝	甕				
9-1	5AGr.	大溝	高坏				
2	6AGr.	大溝	高坏				
3	4BGr.	大溝	高坏				
4	4BGr.	大溝	高坏				
5	4BGr.	大溝	高坏				
6	6AGr.	大溝	坏蓋				
7	5BGr.	大溝	坏蓋				
8	4BGr.	大溝	坏蓋				
9	4BGr.	大溝	坏蓋				
10	5ABGr.	大溝	坏身				

埴輪・山茶碗・他

写真番号	地区	出土地	種類
9-11	2BGr.	S D03	埴輪
12	1BGr.	包含層	埴輪
13	2BGr.	S D03	埴輪
14	2BGr.	S D03	埴輪
15	2BGr.	S D03	埴輪
16	2BGr.	S D03	埴輪
17	2BGr.	S D03	埴輪
10-1	2BGr.	S D03	鉄製品
2	3AGr.	包含層	土製紡錘車
3	排土中		礫石錘
4	4AGr.	P 27	陶器 碗
5	1BGr.	包含層	陶器 碗
6	1BGr.	包含層	陶器 碗
7	1BGr.	包含層	陶器 碗
8	6BGr.	包含層	陶器 碗
9	6BGr.	包含層	陶器 碗
10	6BGr.	包含層	陶器 碗
11	4AGr.	包含層	陶器 小皿
12	5AGr.	包含層	陶器 小皿
13	6BGr.	P 4	陶器 小皿

SK01出土遺物

写真番号	種類	器種	備考(産地、時期)
11-1	陶器	碗	
2	陶器	搗鉢	
3	陶器	土瓶	瀬戸、近世末~明治
4	瓦質土器	蚊燵	
5	陶器	土瓶	
6	陶器	植木鉢	底部に墨書
7	陶器	壺	
12-3	陶器	皿	瀬戸美濃 19C前半
4	陶器	碗	瀬戸美濃 近世末~明治
5	陶器	乗燭	
6	陶器	双耳壺	
7	陶器	德利	

SK03A出土遺物

13-1	陶器	碗	
2	陶器	碗	天保頃
3	陶器	碗	天保頃 鉄釉
4	磁器	碗	
5	磁器	碗	肥前系 19C後半以降
6	陶器	乗燭	瀬戸美濃 19C
7	陶器	灰釉小瓶	瀬戸美濃 18C

SK03B出土遺物

13-8	陶器	乗燭	19C
14-1	陶器	蓋	
2	陶器	碗	信楽? 19C前半
3	陶器	小瓶	19C
4	陶器	碗	灰釉梅花文
5	陶器	片口鉢	瀬戸美濃 18C末
6	磁器	瓶	染付
7	陶器	德利	
8	土器	焼塩壺	E類(渡辺誠氏分類)

包含層、石敷き周辺出土遺物

12—	1	陶器	蓋	1BGr. 包含層
	2	陶器	合子	1BGr. 包含層
15—	1	陶器	蓋	無釉 石敷き上位包含層
	2	陶器	蓋	産地不明 近世末 石敷き上位包含層
	3	陶器	小瓶	石敷き上位～下位包含層
	4	陶器	蓋	瀬戸美濃 19C 前半 石敷き上位～下位包含層
	5	磁器	鉢	石敷き上位～下位包含層
	6	陶器	碗	近世末～明治 2BGr. 包含層
	7	磁器	水滴	瀬戸美濃 19C 石敷き掘り方
	8	陶器	水瓶	瀬戸美濃 19C 前半～中半 石敷き掘り方

SK14出土遺物

16—	1	陶器	乗燭	
	2	陶器	乗燭	
	3	陶器	乗燭	
	4	陶器	乗燭	
	5	陶器	乗燭	
	6	陶器	乗燭	
	7	陶器	蓋	
	8	陶器	蓋	錆釉 備前写し 19C
	9	磁器	紅皿	
	10	陶器	灯明皿	
17—	1	磁器	碗	
	2	磁器	碗	
	3	陶器	碗	
	4	陶器	皿	
	5	陶器	碗	瀬戸美濃 鉄絵 19C
	6	陶器	碗	
	7	陶器	碗	
	8	陶器	碗	瀬戸美濃 19C 前半
18—	1	陶器	播鉢	
	2	陶器	碗	瀬戸美濃 19C 前半
	3	陶器	鍋	産地不明 19C
	4	陶器	鉢	常滑 19C
	5	陶器	手焙り	19C
	6	陶器	水鉢	
	7	陶器	播鉢	
	8	陶器	火鉢	瀬戸 赤染 19C 前半

SD01出土遺物

19—	1	陶器	蓋	
	2	陶器	皿	
	3	陶器	碗	鉄釉 菊文様型刷り 近世末
	4	陶器	碗	
	5	陶器	植木鉢	瀬戸美濃 赤染 近世末
	6	陶器	甕	
	7	陶器	徳利	

土人形 写真番号	地区	出土地	種類	特徴
20—1	6AGr.	S K14	鳥	型造り
2～4		S K14	鳥	手捏ね
5		S K14	鳥	手捏ね
6		S K14	鳥	型造り
7		S K14	犬	手捏ね
8～10		S K14	犬	型造り
11		S K14	猫	型造り
12～17		S K14	馬	型造り
18～19		S K14	獅舞	型造り
20		S K14	婦人	型造り
21～23		S K14	婦人	型造り
24～25		S K14	婦人	型造り
26		S K14	婦人	型造り
27		S K14	福助	型造り
28		S K14	布袋寿	型造り
29～30		S K14	天神	型造り
21～31		S K14	蛸壺	手捏ね
32		S K14	瓢箪	型造り
33～36		S K14	家	型造り
37		S K14	城	型造り
38		S K14	?	手捏ね
39	2BGr.	S K03B	鳥	手捏ね
40	1BGr.	S K03A	犬	型造り
41	5AGr.		鳥	型造り
42	6AGr.	包含層	犬	手捏ね
43	6AGr.	包含層	人	型造り
44	2BGr.	S K03B	婦人	型造り
45	2BGr.	S K03B	太鼓	型造り
46	4BGr.	S D01	狸	型造り
47	6AGr.	包含層	家	型造り
22—48	2BGr.	石敷き	馬	型造り

赤彩  
鳴り物

体部に差し込み

後型

緑色釉  
底部穿孔

中空

雲母多い



# 圖 版





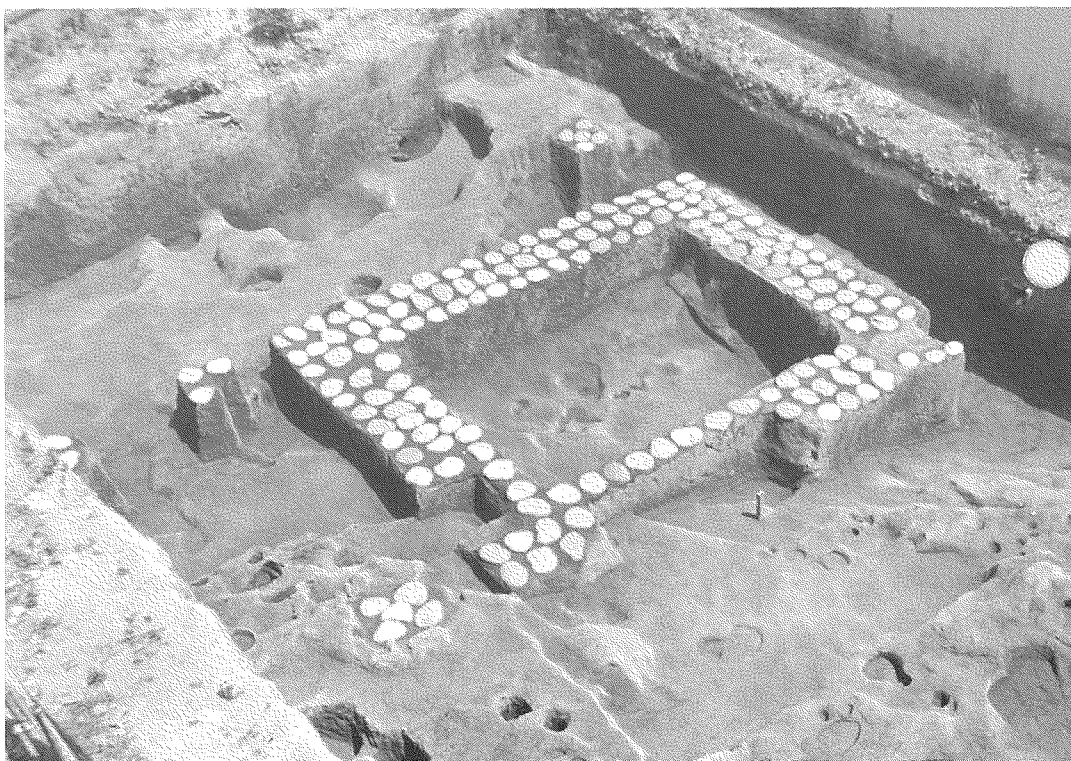
調査区全景(垂直写真 $\frac{1}{300}$ )



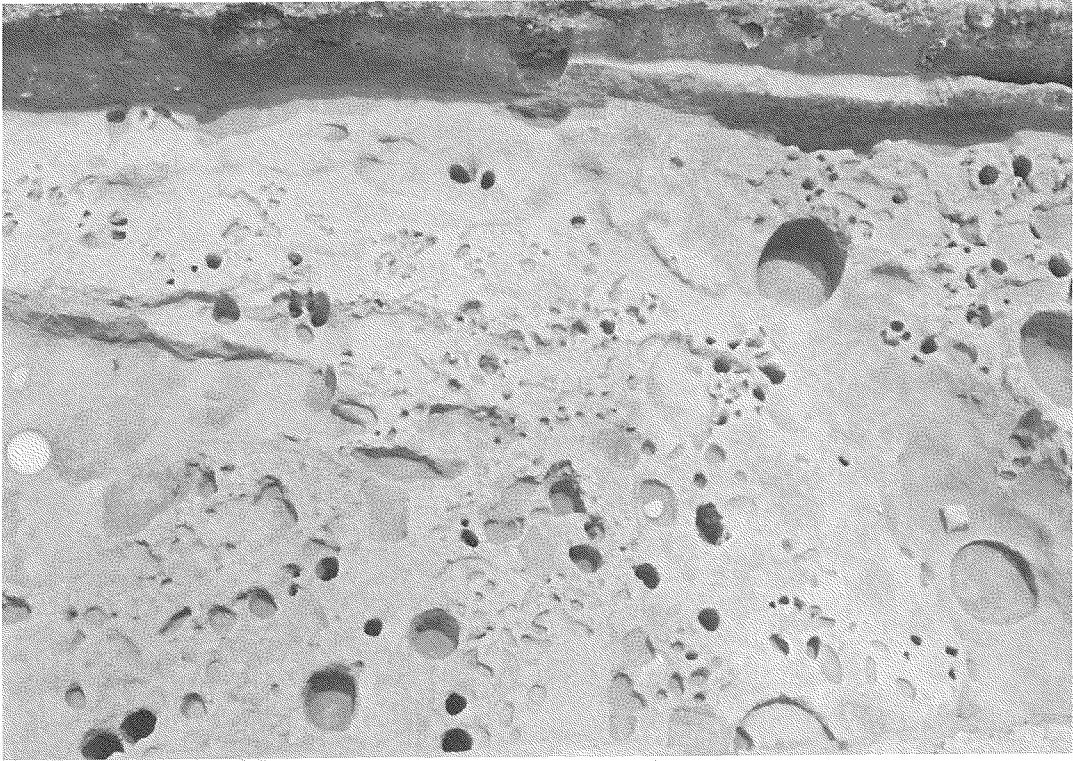
図版 2



調査区全景(北西より)



調査区東側(北西より)



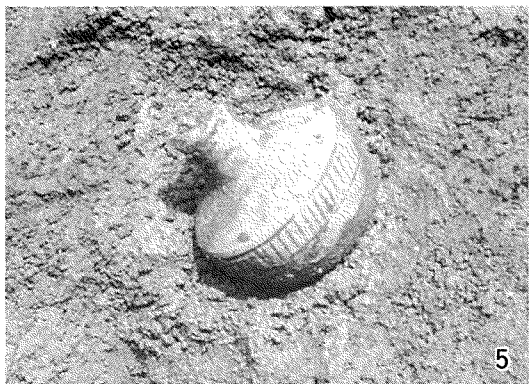
調査区中央(北より)



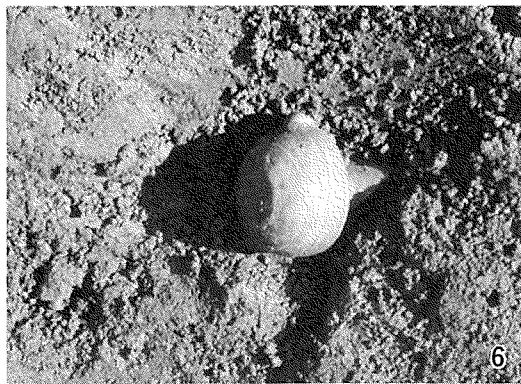
調査区西側(北より)



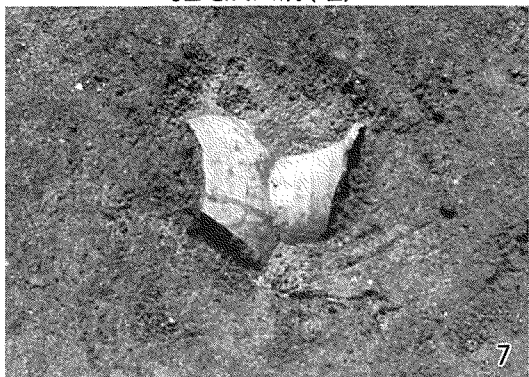
图版 4



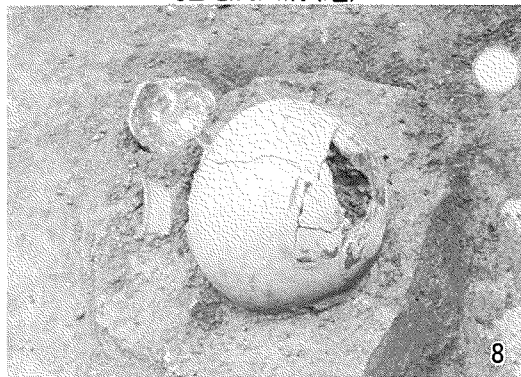
5BGr. 大溝 (碗)



3BGr. 大溝 (碗)



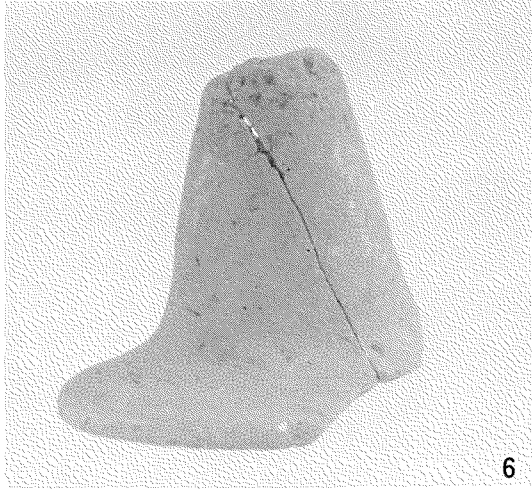
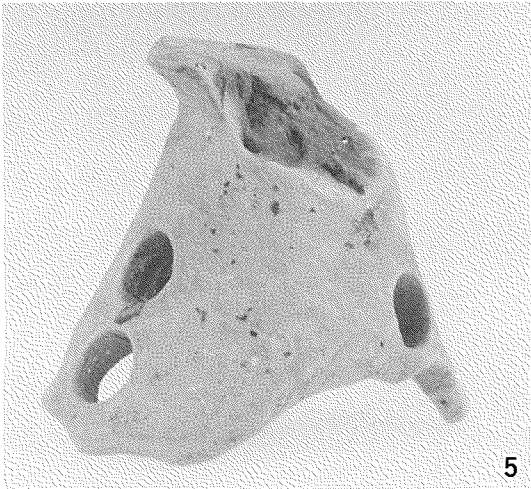
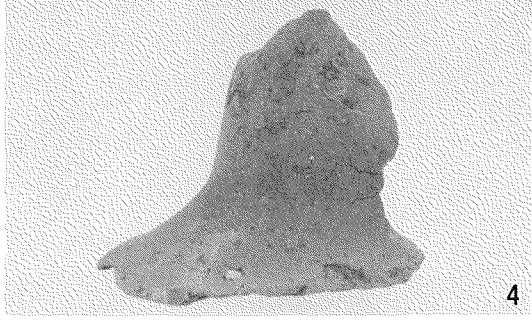
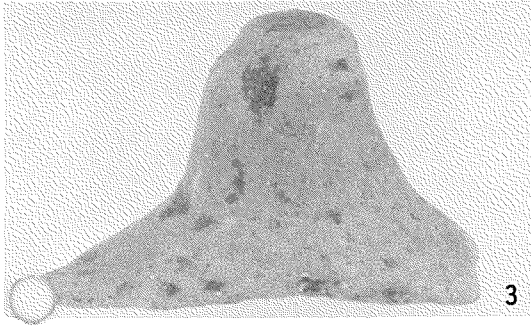
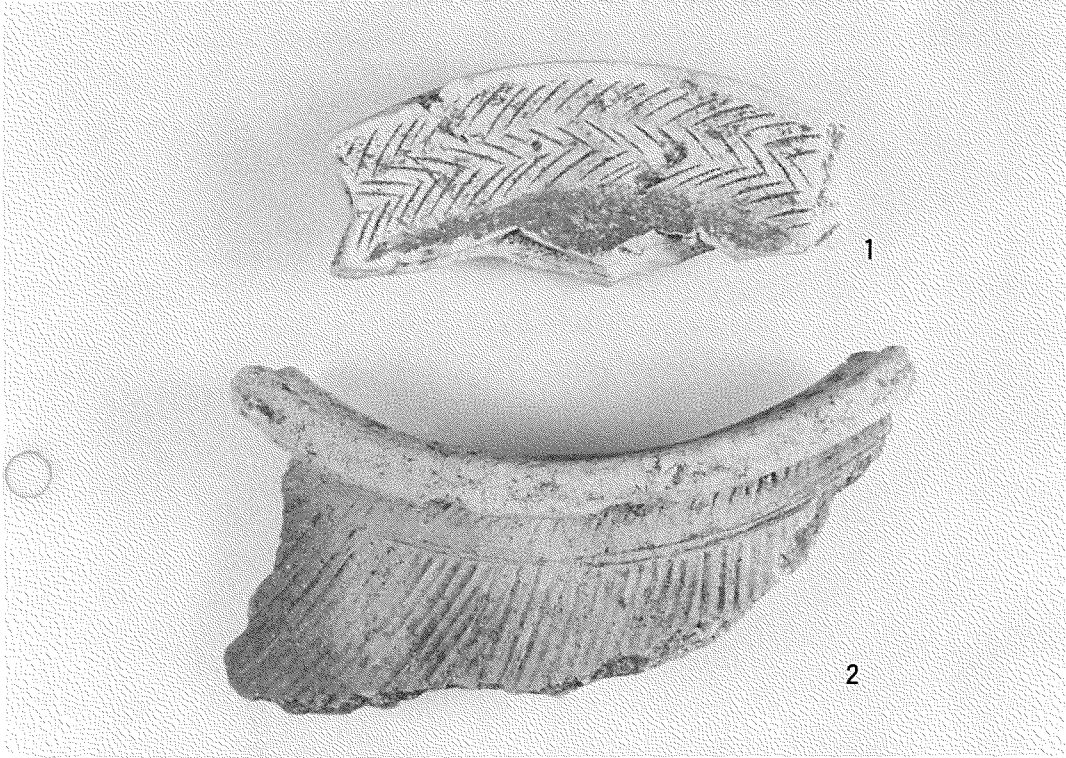
5BGr. 大溝 (提瓶)



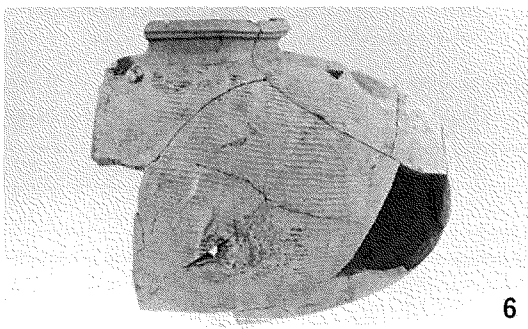
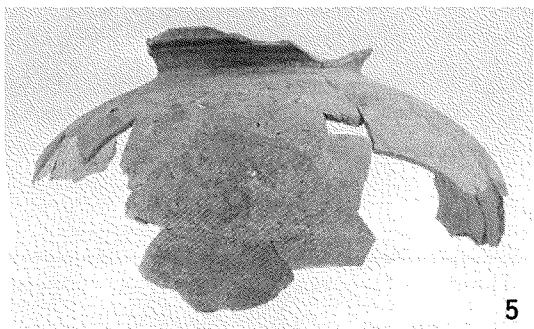
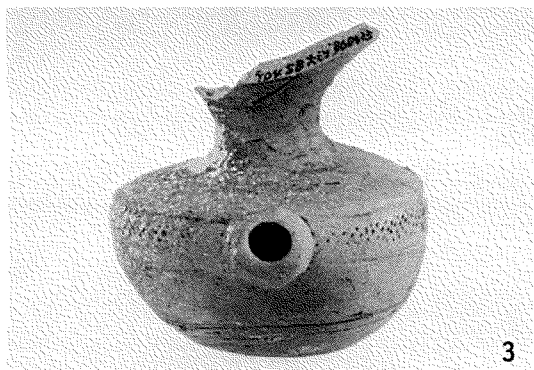
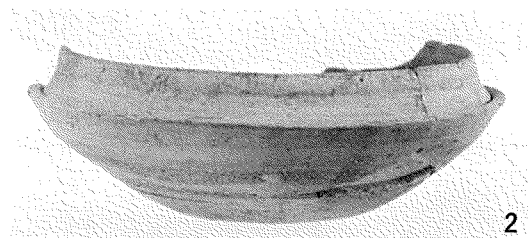
5AGr. 大溝 (甕)



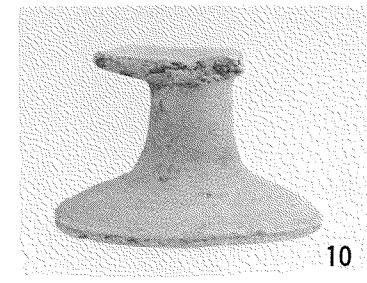
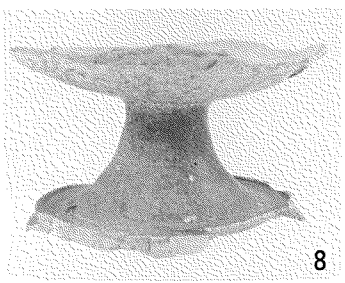
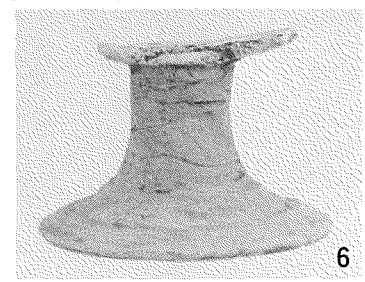
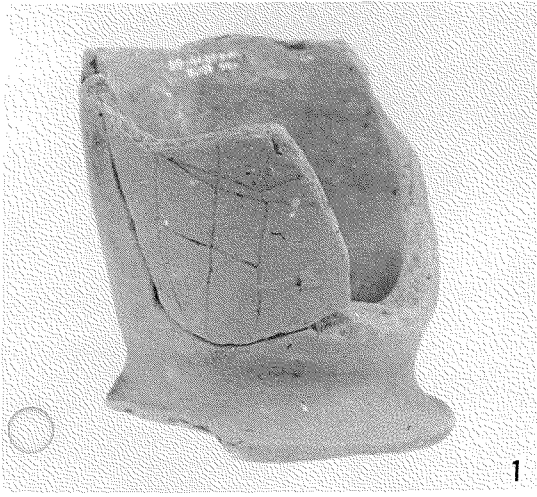
4BGr. SK06 (高坏・短頸壺)



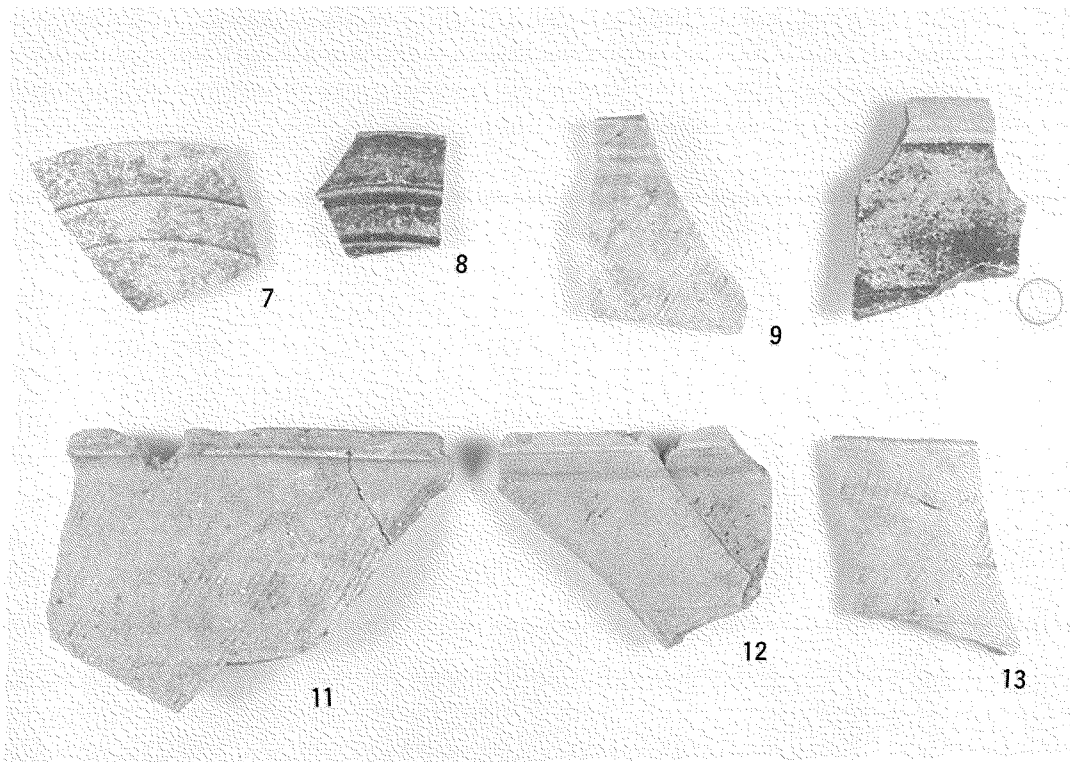
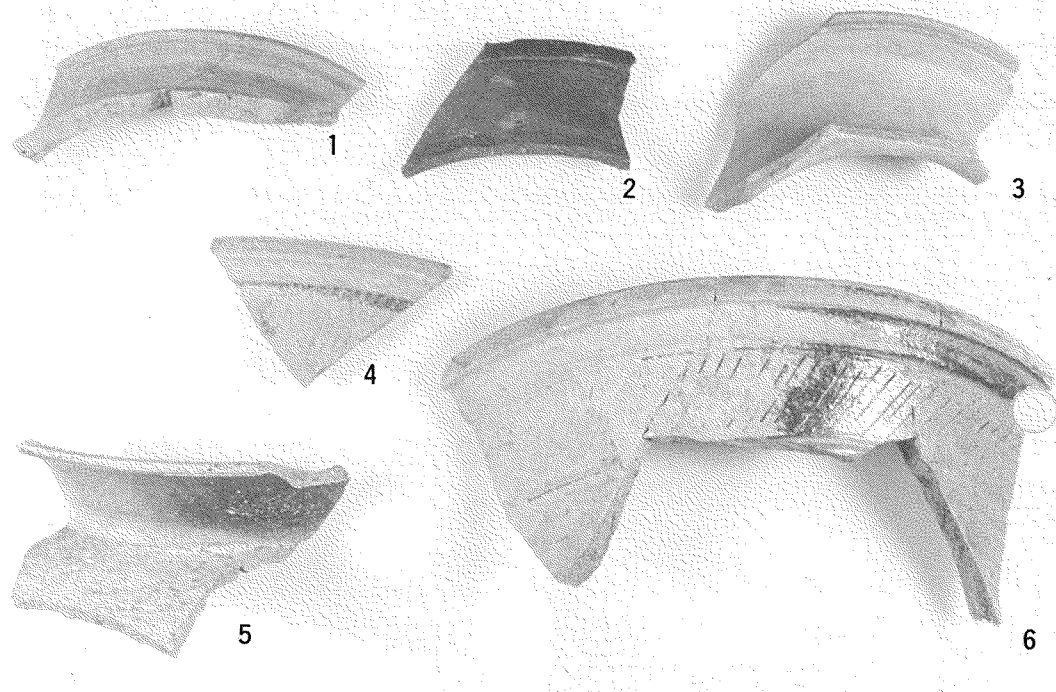
図版6 大溝出土遺物

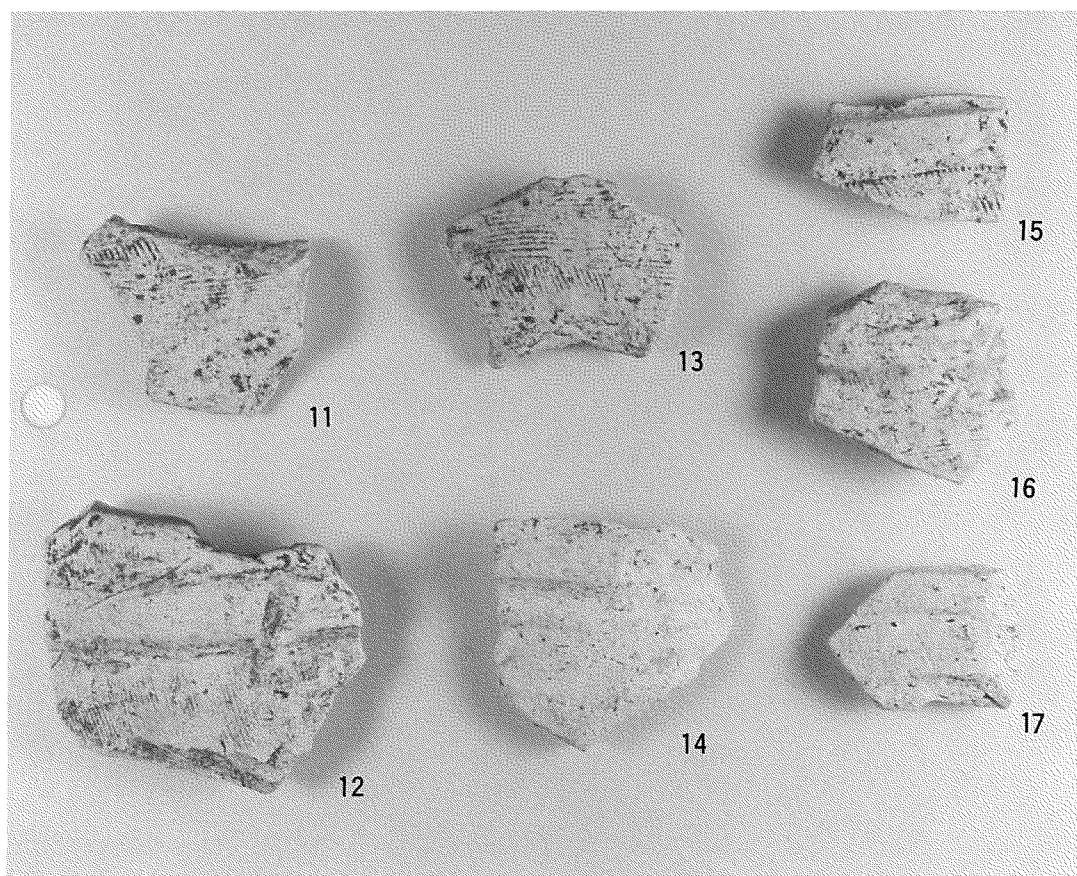
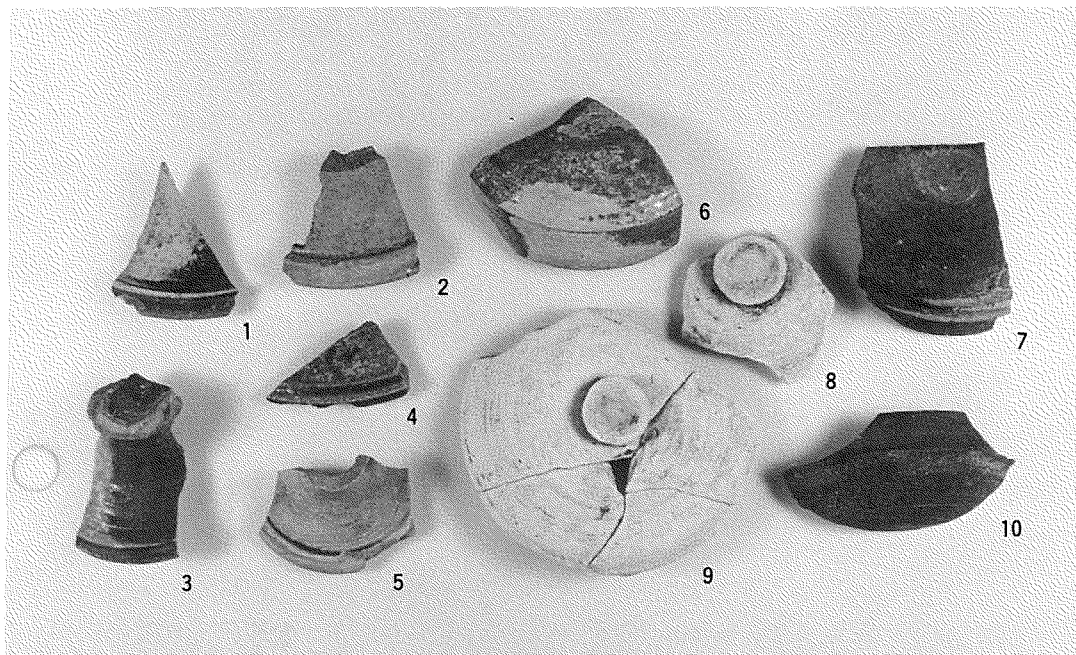




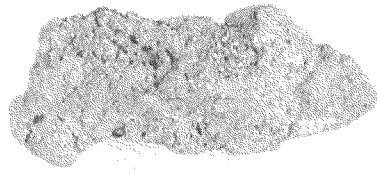


図版 8 大溝出土遺物

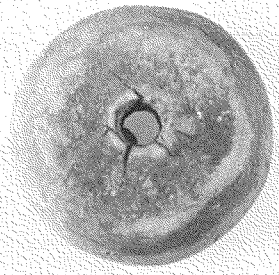








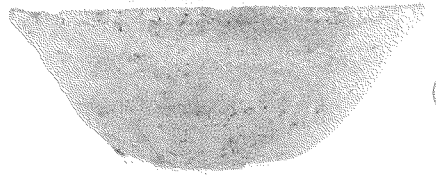
1



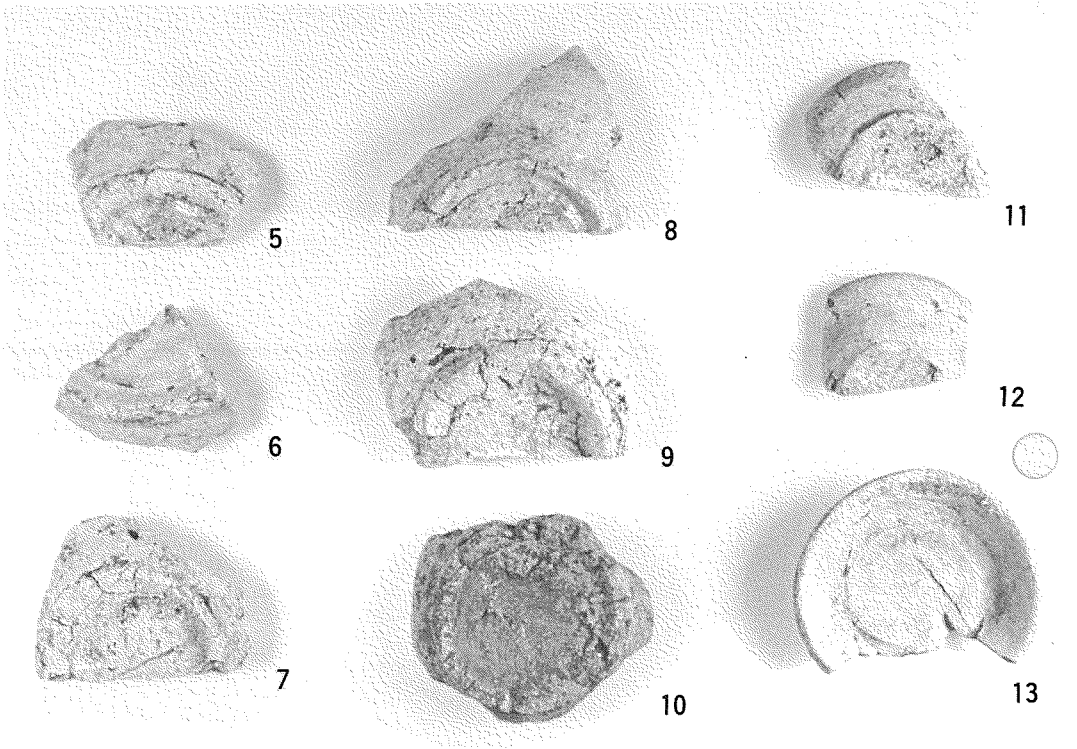
2



3



4



5

8

11

6

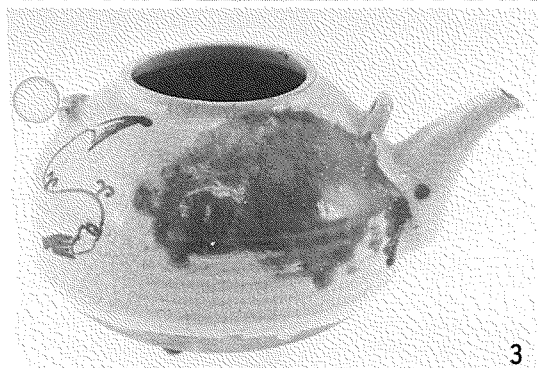
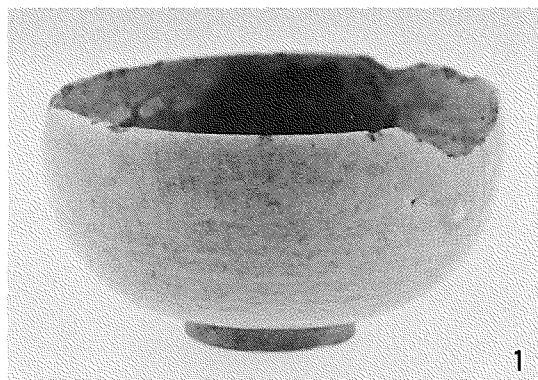
9

12

7

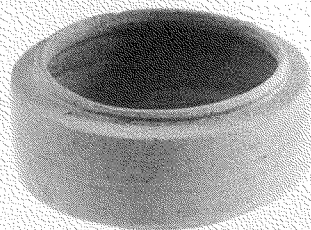
10

13

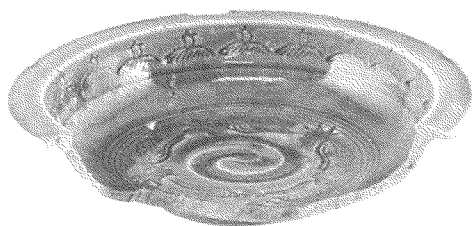




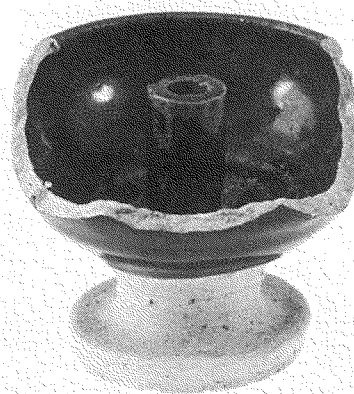
1



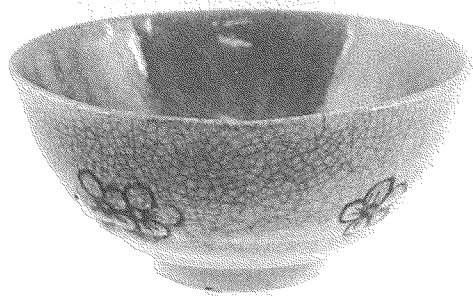
2



3



5



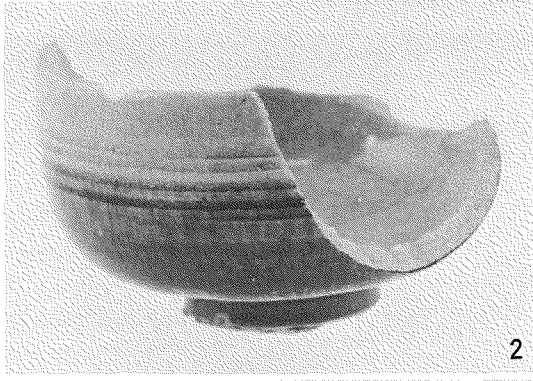
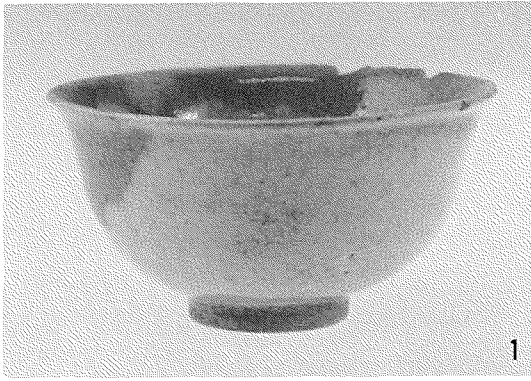
4



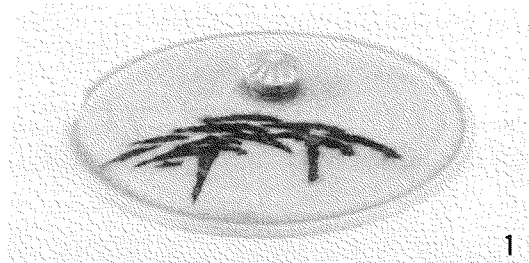
6

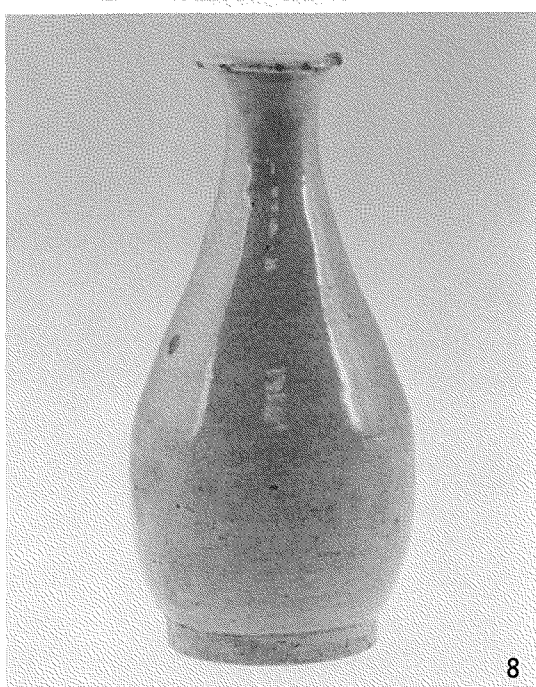
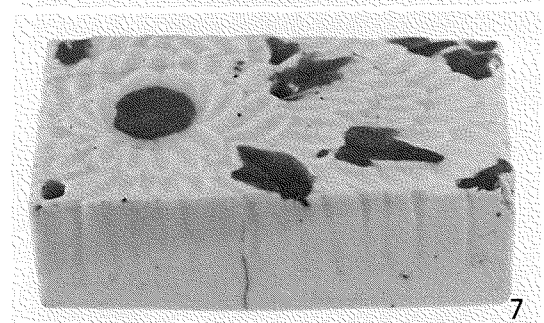
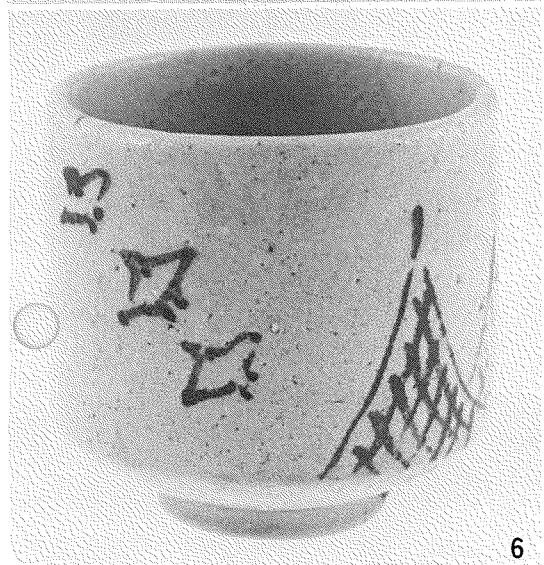
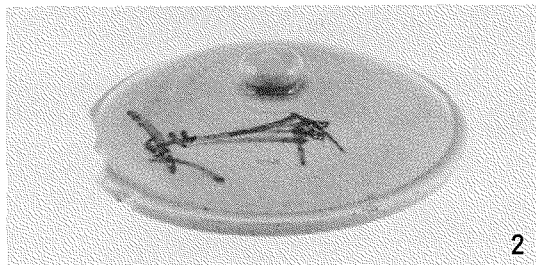


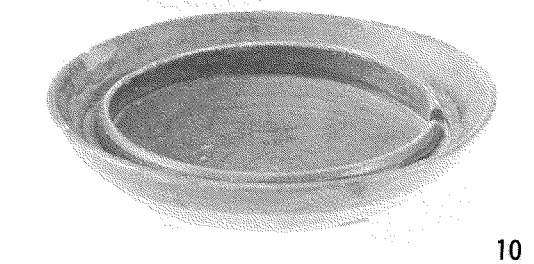
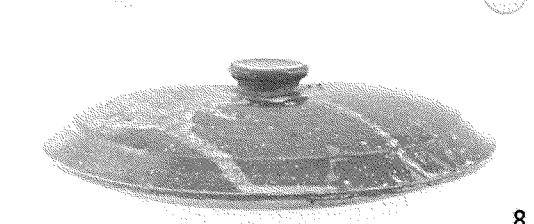
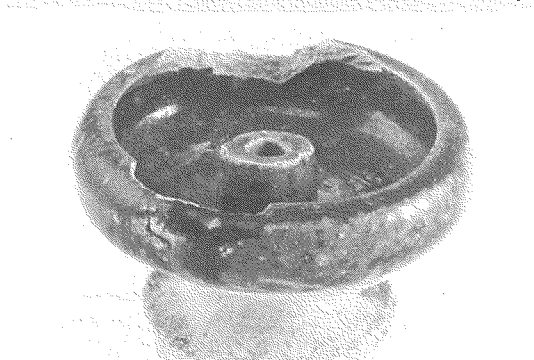
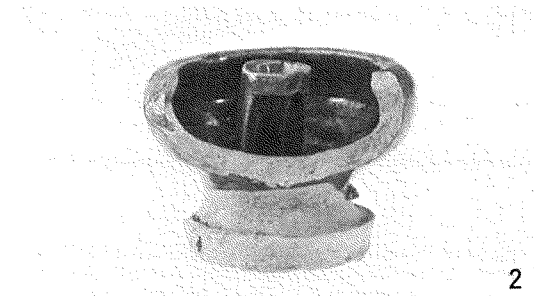
7



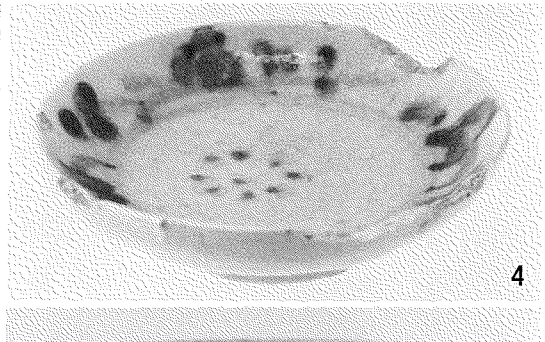
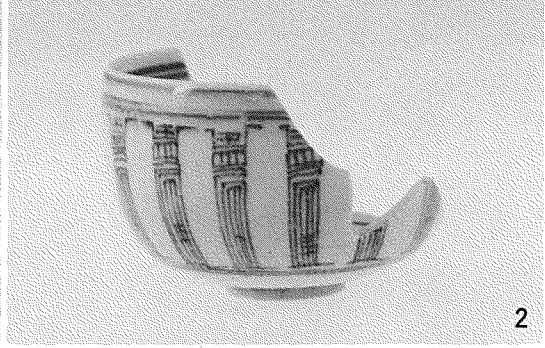




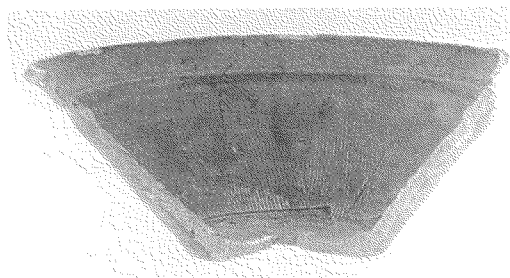




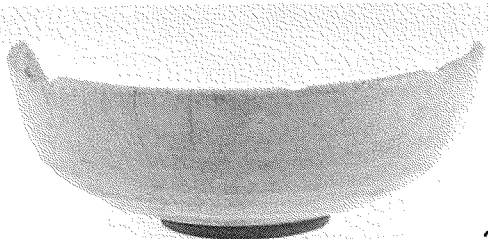








1



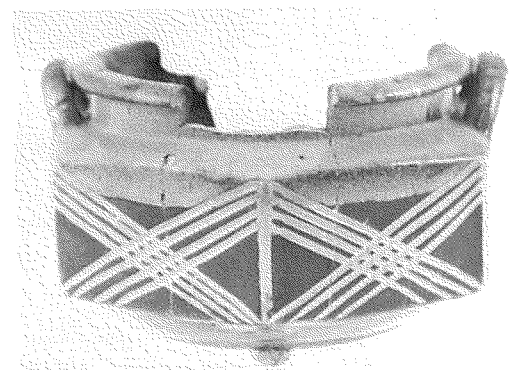
2



3



4



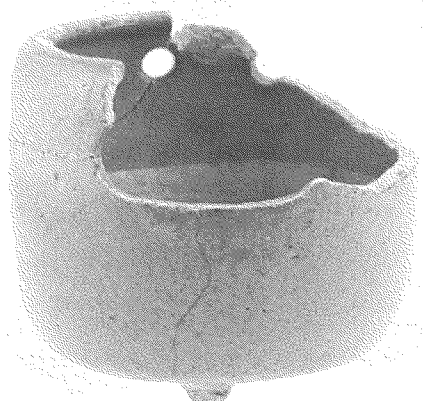
5



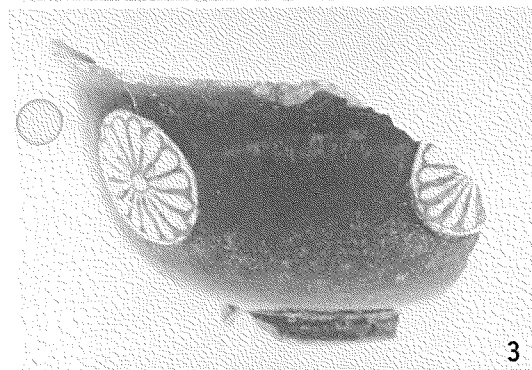
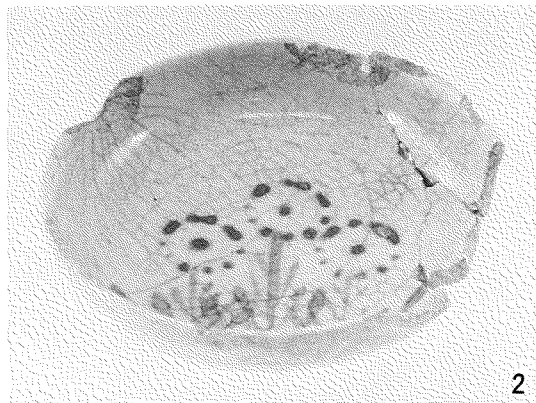
6

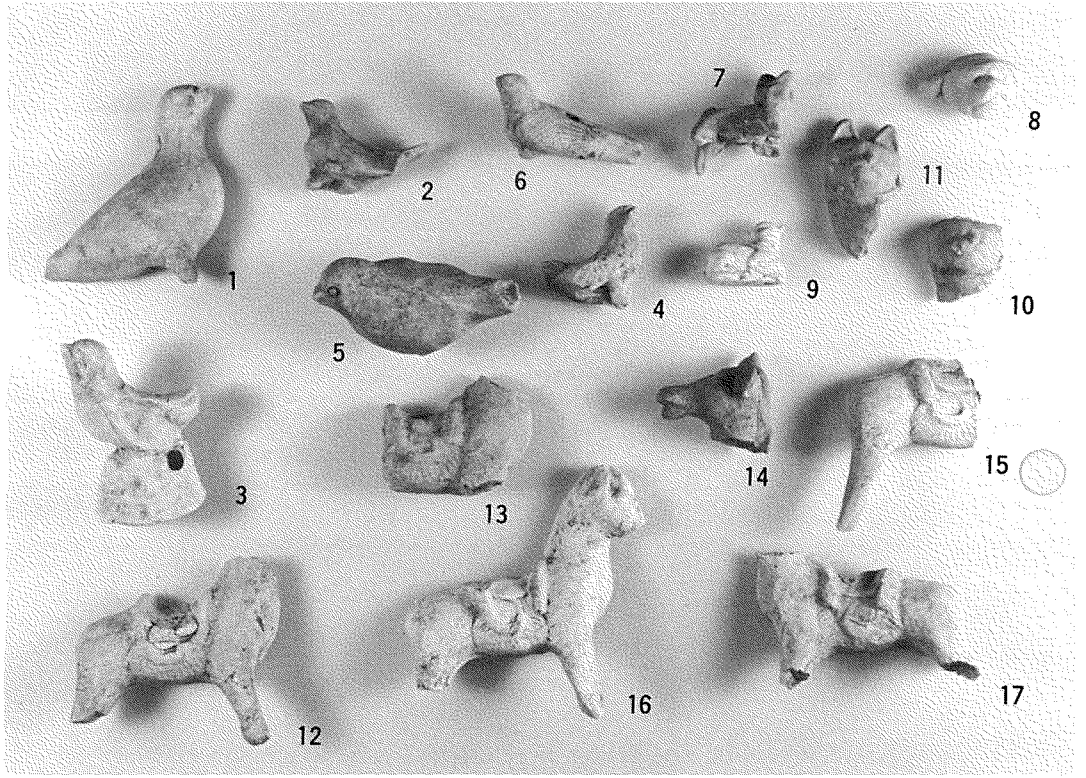


7

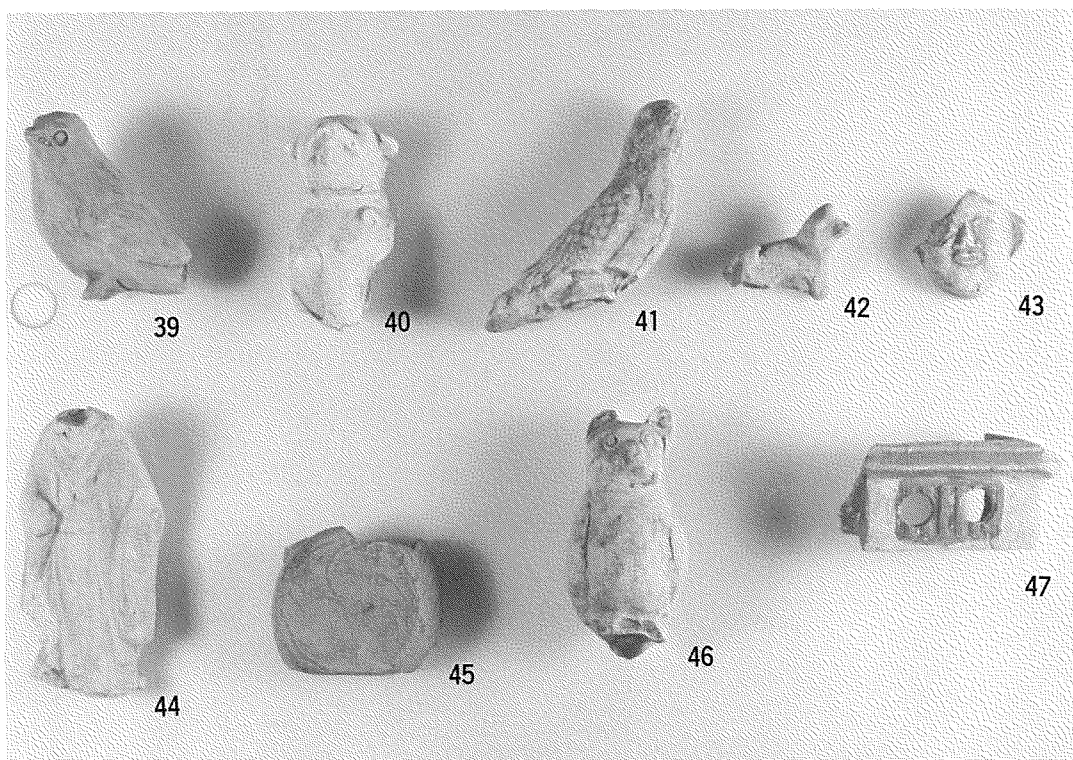
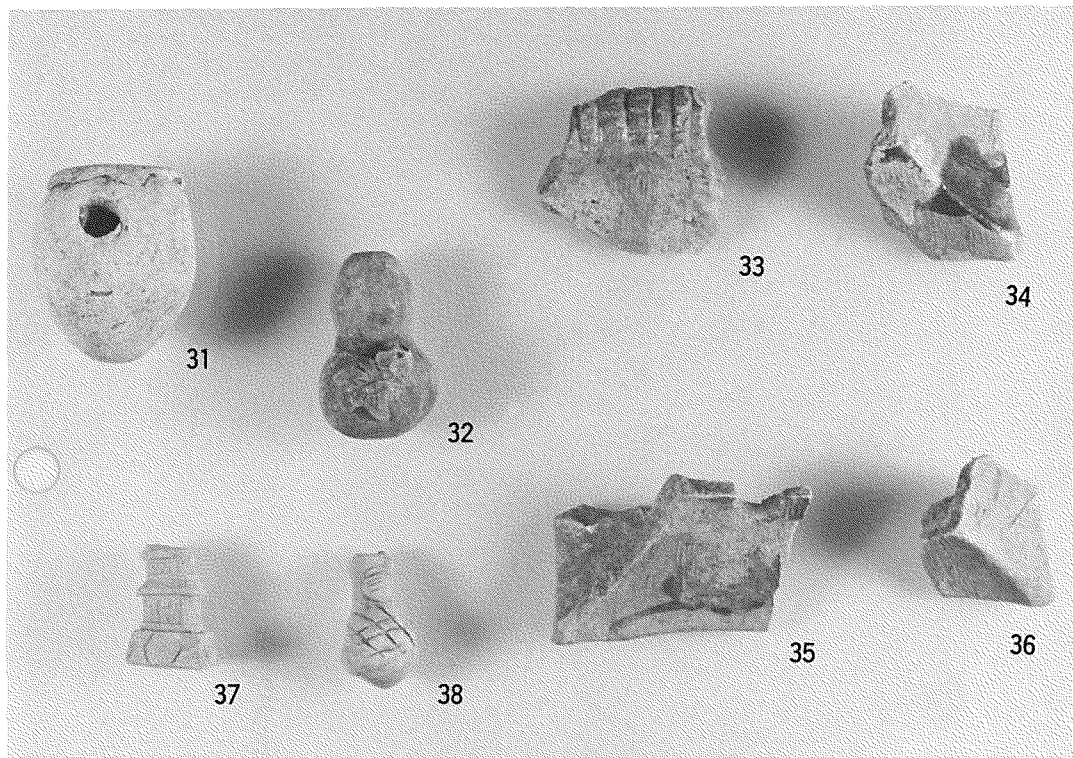


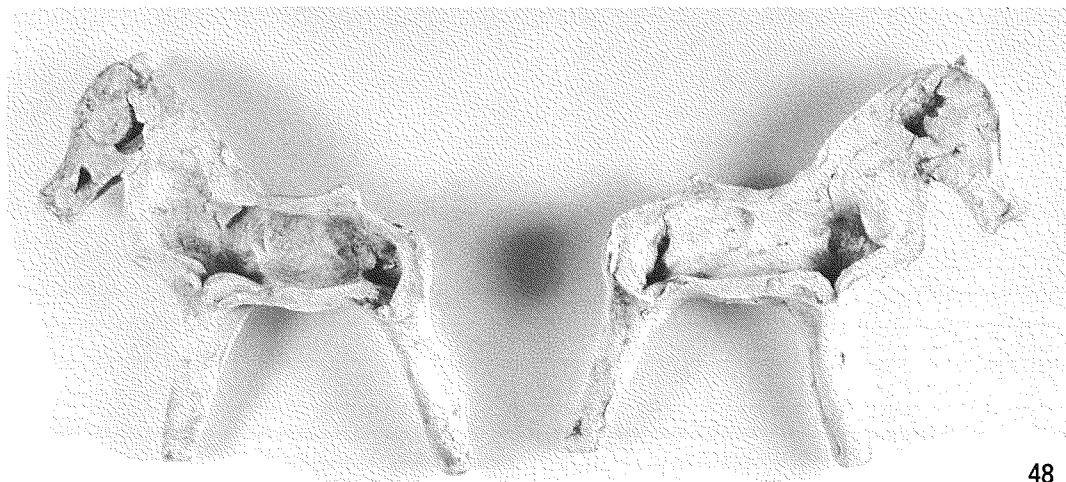
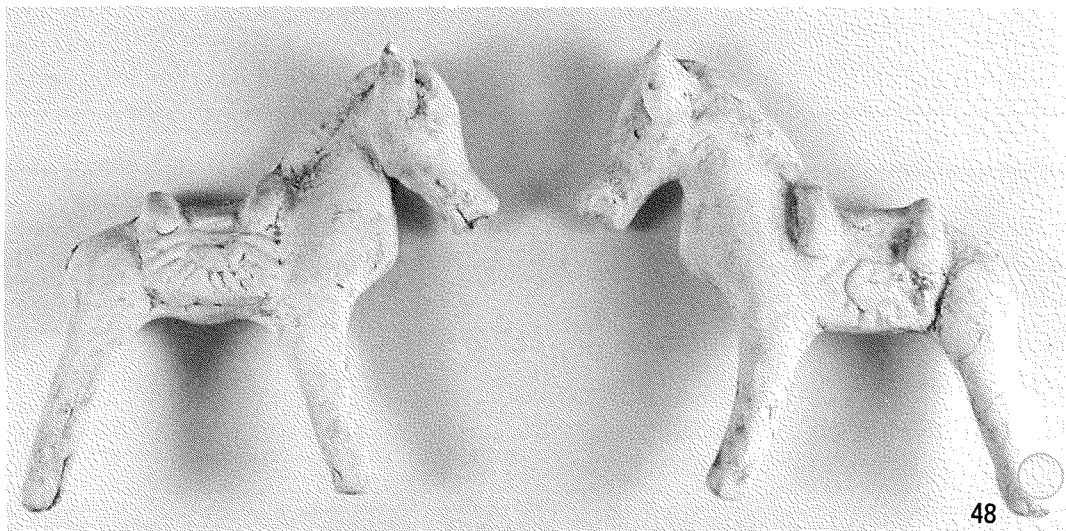
8











昭和62年3月31日発行

中区栄一丁目  
第4次豎三蔵通遺跡発掘調査  
概要報告書

編集 名古屋市見晴台考古資料館  
発行 名古屋市教育委員会  
印刷 澤多印刷有限会社

